

金沢大学

推薦入試

学生募集要項



目 次

■出願手続から入学までの日程	3
■出願方法 [インターネット出願]	4

I. 共通

1. 入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)...	5
2. 障がいのある者等の出願.....	10
3. 問合せ先.....	10
4. 入試情報の提供.....	11
5. 入学試験の個人成績の開示.....	12
6. 個人情報の保護.....	12
7. JAPAN e-Portfolio 学びのデータ	12

II. 推薦入試 I (大学入試センター試験を課さない)

1. 募集人員.....	13
2. 推薦要件.....	13
3. 選抜方法.....	14
4. 試験期日・試験時間.....	14

III. 推薦入試 II (大学入試センター試験を課す)

1. 募集人員.....	15
2. 推薦要件.....	16
3. 選抜方法.....	20
4. 試験期日・試験時間.....	43

IV. 出願手続

1. 出願方法.....	44
2. 出願期間.....	44
3. 出願書類等.....	44
4. 入学検定料の支払.....	49
5. 受験票の印刷.....	49

V. 合格者発表

1. 発表日時.....	50
2. 発表場所.....	50
3. 推薦入試に合格しなかった場合の取扱い.....	50

VI. 学生生活

1. 入学手続.....	51
2. 入学時に必要な経費.....	51
3. 学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険...	51
4. 入学科免除・入学科徴収猶予.....	51
5. 授業料の納入.....	52
6. 授業料免除.....	52
7. 金沢大学学生特別支援制度.....	52
8. 奨学金.....	52
9. 学生留学生宿舍.....	53
10. 学生寮.....	53
11. 保健管理センター.....	54
12. 携帯型パソコンの準備.....	54
13. 申請書類等の請求及び照会先.....	54

【付図】

1. 金沢大学所在地略図.....	55
2. 金沢大学キャンパス配置図.....	56

(注) 本入学者選抜に関するすべての事項は、志願者本人がこの学生募集要項を熟読することによって、必ず本人の責任で確認してください。

『自然災害により被災された志願者の皆さんへ』

金沢大学では、自然災害等の被災者の経済的負担を軽減し、志願者の進学のを確保するため、入学検定料免除の特別措置を講じます。対象となる自然災害及び被災地域など、免除に関する詳細につきましては、金沢大学(入試情報) Webサイトをご覧ください。

金沢大学 (入試情報) Web サイト : <https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>

入学検定料の免除を希望される方は、出願前に本学学生部入試課までご連絡ください。



■出願手続から入学までの日程

◎推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）

学域・学類		出願期間	受験票印刷可能日	小論文・面接等	合格者発表	入学手続	入学
人間社会学域	経済学類	11月 1日（金） } 11月 7日（木）	11月13日（水）	11月30日（土）	12月11日（水）	2月12日（水） } 2月18日（火）	4月
	国際学類	※インターネット 出願システムは、 10月25日（金）から 事前登録が可能。		第2次（最終）選考 11月30日（土）	第1次選考 11月20日（水） 第2次（最終）選考 12月11日（水）		

◎推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

学域・学類		出願期間	受験票印刷可能日	小論文・面接等	合格者発表	入学手続	入学
会人 学間 域社	法学類 学校教育学類 地域創造学類	12月16日（月） } 12月20日（金）	12月27日（金）	2月1日（土）	2月10日（月）	2月12日（水） } 2月18日（火）	4月
医薬保健学域	医学類			第2次（最終）選考 2月10日（月）	第1次選考 2月 6日（木） 第2次（最終）選考 2月12日（水）	2月18日（火） } 2月19日（水）	
	保健学類	※ インターネット 出願システムは、 12月6日（金）から 事前登録が可能。		2月1日（土）	2月10日（月）	2月12日（水） } 2月18日（火）	

【留意事項】不測の事態が発生した場合の情報提供

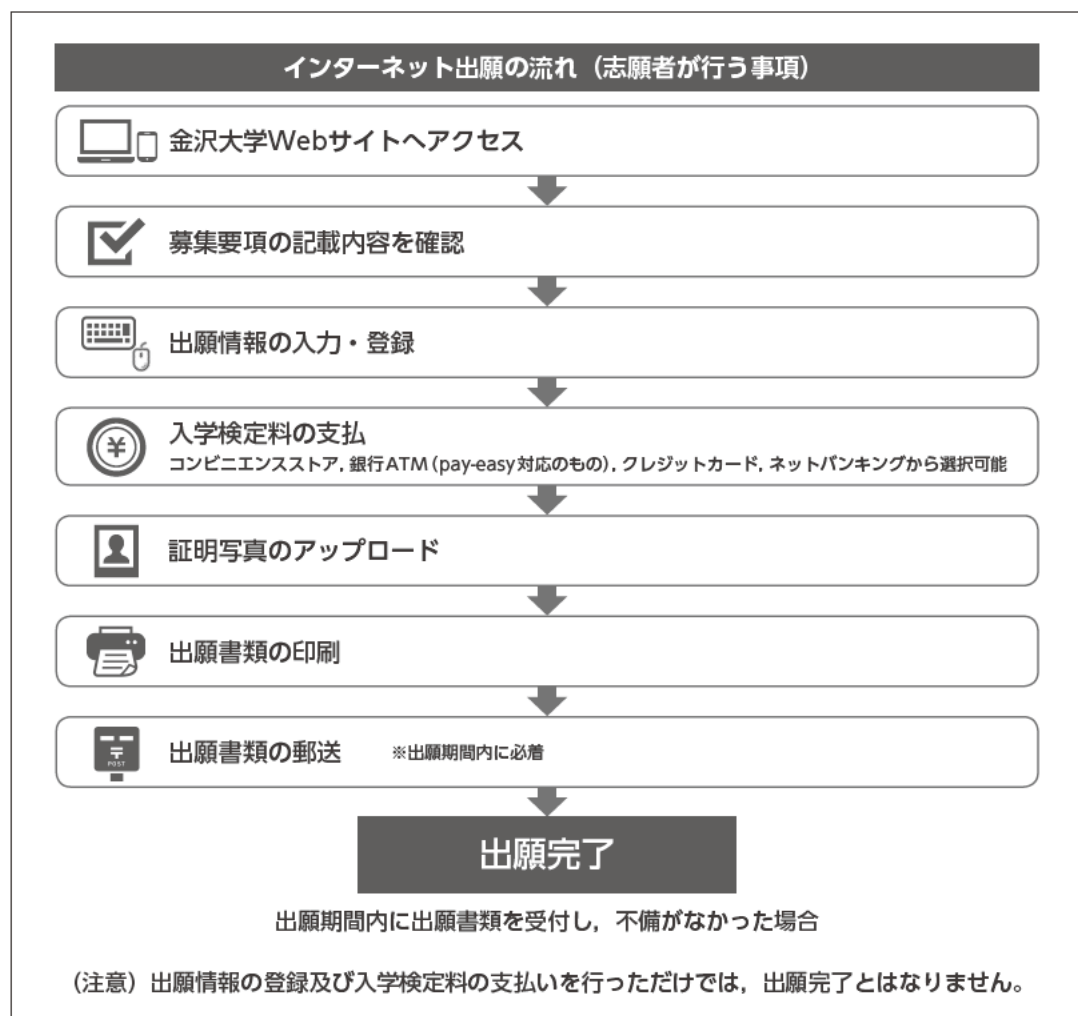
不測の事態により、発表内容や試験時間等を変更する場合は、金沢大学Webサイトに随時情報を掲載しますので、出願前や受験直前に必ず確認してください。

金沢大学（入試情報）Webサイト <https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>



■出願方法 [インターネット出願]

金沢大学の出願方法はインターネット出願限定です。
学生募集要項の紙媒体（冊子）での配布は行いません。



※インターネット出願の詳細は、金沢大学Webサイトを確認してください。

金沢大学（入試情報）Web サイト <https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>



《インターネット出願デモサイト》

インターネット出願を体験できるデモサイトを、本学Webサイトに掲載しています。

I. 共通

1. 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

金沢大学アドミッション・ポリシー

（1）金沢大学憲章と教育の理念

1862（文久2）年、加賀藩彦三種痘所の設立をもって大学の創基とする金沢大学は、旧制第四高等学校を含む様々な前身校を源流として、1949（昭和24）年に新制金沢大学となりました。

150年以上に及ぶ金沢大学の教育研究と社会貢献は、そのありうべき姿を、現在、金沢大学憲章として明らかにしています。すなわち、金沢大学憲章は、その前文で大学全体の進むべき道をこう宣言しています。

「金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むこととし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定する。」

この憲章に謳われた教育理念とは、以下のものに他なりません。

「金沢大学は、学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする。また、教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して、専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する。」

（2）金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）と求める人材像

さらに、教育の国際化とグローバル人材育成が声高く叫ばれている今、金沢大学は、上に掲げた大学憲章を現在の状況における人材育成方針としてより具体化するために、金沢大学〈グローバル〉スタンダードを定めました。これは、各学域学類のアドミッション・ポリシーの源泉たる、大学全体のアドミッション・ポリシーとなるものです。

金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）（抄）

「本学は、各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材を育成する。」

すなわち、金沢大学は、このKUGSに適う資質と能力の開花を少なくとも確かな可能性として示すだけでなく、なによりも、このような人材になろうとする高い志と強い気概をもった人物の入学を期待しています。

学域・学類等のアドミッション・ポリシー

《人間社会学域》

【法学類】

国内外の社会状況が大きく変化している現代において、法と政治に関する基本的な理念や知識は、個々人が他者と共生していくために不可欠なものとなっています。法学類では、このような認識に基づき、法学・政治学を体系的に学ぶことを通じて、現代社会が抱える諸問題を発見し、将来的課題に取り組む能力を有した人材を養成することを目標としています。

求める人材（法学類共通）

- ・大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えている人
- ・国内外の社会問題に関心を持ち、よりよい社会の実現のために貢献したいと願っている人
- ・論理的思考や情報分析を通じて、また、過去の歴史的経緯をふまえつつ、社会現象の本質を探究したいという意欲のある人

求める人材（推薦入試）

- ・コミュニケーション能力（とくに、人の話を正確に理解し、自分の意見を論理的に述べる能力）が優れている人
- ・課題や仕事に率先して取り組む意欲や責任感のある人

選抜の基本方針

基礎学力に加え、面接を通じて、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを正確に理解し自分の意見を論理的に述べるコミュニケーション能力があるか、自主的・主体的に課題に取り組む意欲はあるかななどを総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

- ・高等学校で履修した様々な科目の内容について理解していること
- ・法律や裁判例の読解、政治的問題の把握、これらに基づく私見の提示・論述に必要な国語力を十分に修得していること
- ・社会的・国際的諸問題の本質を探究し、その解決を図るために必要な社会科目や外国語科目の学力を十分に修得していること

【経済学類】

経済学類では、多様な社会的課題に対応できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて、高校の専門教育を主とする学科又はそれと同等な総合学科からの進学希望者を対象とする推薦入試、および帰国子女入試・国際バカロレア入試・私費外国人留学生入試を設けています。経済分野に対する興味・関心と、勉学に対する強い意欲を持ち、基礎的資質に優れた

人材を求めます。

求める人材

- ・経済学・経営学に関する体系的知識を学び、現代社会の諸問題の分析と解決に挑みたい人
- ・国や地域社会の仕事に携わるために必要な専門的知識を身につけたい人
- ・国際的な社会経済の日々の出来事に鋭敏にアンテナを張り巡らせている人
- ・営利・非営利のビジネスに関心を持ち、将来これらのフィールドで活躍したい人

選抜の基本方針

現代の文化・社会・経済に関する文章を理解する能力、論理的思考力、表現力に加え、平素の学習活動や大学入学後の計画等を重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

地域においても、国際的な分野においても、人間社会で活躍するためには、国語・英語および情報処理の基本的な力は不可欠です。また経済学類では、特に数学の知識を前提にした授業を履修することを求めます。さらに現代社会の経済およびそこの日本の位置づけを理解するためには、その前提として地理歴史・公民の知識が必要となります。現代の環境や技術革新の問題を学ぶためには、これと密接に結びついた科学技術の知識が必要であり、理科を学んでおくことを望みます。

【学校教育学類】

激しく変動するグローバル社会の中で、これからの学校教育における新たな学びを支える教師には、教科や教職に関する専門的な知識および実践的指導力に加え、絶えず自律的に学び続け、学校を取り巻く現代社会の変化や諸問題を的確に把握し、使命感を持って課題解決にあたる姿勢が求められます。また、様々な社会的背景を持った多様な子どもたちに向き合い、より深く、共感的に理解しつつ、子どもの発達等に関する専門的知見を踏まえながら、一人一人の子どもたちのニーズに応じた対応が求められます。

学校教育学類は、こうした力量を持った義務教育段階の諸学校の教師を組織的、計画的に養成することを主たる目標としており、専門職としての教師への熱意にあふれ、かつ地域における文化の形成に寄与する人材を求めます。

学校教育学類には、教育科学コースと教科教育学コースのもと、教育基礎、特別支援教育、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、家政教育、英語教育の11の専修があります。各専修への所属は2年進級時に、本人の希望、適性等を総合的に考慮したうえで決定します。

求める人材

- ・自立した専門職としての教師を目指す人
- ・社会、自然、人間、文化、教育について深い関心を持っている人
- ・自分の考えを表明し、他者との対話を通じて、反省的に自己を形成していこうとする人
- ・教育を通じて、地域社会の再生と発展に貢献しようとする意志を持っている人

選抜の基本方針

〈石川県教員希望枠〉

基礎学力及び勉学意欲ならびに、石川県で教職に就くことへの熱意、資質・適性等を総合的に評価します。

〈専修枠〉

【国語・社会科・英語教育専修】

基礎学力及び勉学意欲、人文・社会科学への関心、教職への意欲・資質・適性等を総合的に評価します。

【数学・理科教育専修】

基礎学力及び勉学意欲、自然科学への関心、教職への意欲・資質・適性等を総合的に評価します。

【音楽教育専修】

基礎学力及び演奏技術、表現力、ソルフェージュ能力、楽典の基礎的知識、志望動機、教職及び音楽に対する熱意と抱負等を評価します。

【美術教育専修】

基礎学力、課題に対する表現力、美術における基礎知識と論理的思考力、教職及び美術教育に対する熱意と抱負を総合的に評価します。

【保健体育専修】

基礎学力及び高校時代のスポーツ活動実績、教育や体育・スポーツに関わる勉学意欲と資質、大学入学後の計画等を総合的に評価します。

【家政教育専修】

基礎学力及び家政教育に対する勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

【特別支援教育専修】

基礎学力、課題に対する思考能力と論述能力、勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

学校教育学類では、小学校一種免許状と、中学校一種免許状あるいは特別支援学校教諭一種免許状の取得に必要な科目の履修を卒業要件としていることから、次の3点を望みます。

- ・小学校・中学校・高等学校およびそれらに相当する学校など、これまで在籍してきた学校において教授された知識や技術を確実に獲得しておくこと
- ・大学で専門とする予定の分野に関する興味・関心を深めておくこと
- ・これまでの学校経験を省察するなどして、学校や教師のあり方について自分なりの考えを持っておくこと

【地域創造学類】

地域創造学類は、地域の自然的・文化的資源、伝統、人材、資金、社会関係などを専門的に分析把握し、自治を活かした地域固有のスタイルで、住民の健康・福祉・環境・産業・文化・観光を発展させるとともに、新たな価値創出によって地域を再生し活性化するため、質の高い個性ある地域を計画・設計・政策立案する能力を育成します。

地域創造学類には福祉マネジメント、環境共生、地域プランニング、観光学・文化継承の4つのコースがあります。推薦入試以外の学生は、2年次から本人の希望、適性、学業成績等を考慮して各コースに所属します。

求める人材

- ・大学での地域創造学の学習に必要な基礎的学力を有している人
- ・地域創造力を修得するために、本を読み、文章を書き、地域に出かけ、能動的に学修する努力を惜しまない人
- ・誰もが生き生きと安心して暮らせる地域づくりとグローバルな共生社会の発展に貢献したい人

選抜の基本方針

福祉マネジメント、環境共生、地域プランニングコースでは、基礎学力に加え、面接により大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

地域創造学類では、福祉マネジメント、環境共生、地域プランニング、観光学・文化継承の各コースにおいて、専門的総合的に地域創造学を学ぶことから、高等学校で学ぶ教科全般について文系・理系科目両面にわたり理解しておくことを求めます。

また、地域の諸問題を調査・分析し、政策立案できる能力の修得を目指しています。その前提として、地域社会に対して強い関心を持ち、自ら主体的に情報を集め、自分なりの考えをまとめられるようにしておくことを望みます。

【国際学類】

国際学類は、実践的な英語などの語学力を活用して、将来、外務・対外援助機関や国際機関で働きたい人、海外のNPO、NGOで経験を積みたい人、多国籍企業で力を試したい人、外国人に日本語・日本事情を教えたい人、国内での国際交流活動に携わりたい人などに必要な、多民族・多宗教・多文化共生社会を生き抜く強靱な知性と深い共感性、国際的な場におけるコミュニケーションに必要な外国語運用能力、具体的な問題提起と解決立案を行うセンスを養うことを教育目標とします。

国際学類には国際社会、日本・日本語教育、アジア、米英、ヨーロッパの5つのコースがあり、また、国際社会、米英の両コースには、英語だけで卒業できる英語プログラムもあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、適性、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・多文化や多民族、及び国際社会における諸問題に積極的な興味を持つ人
- ・自国文化のアイデンティティを常に問い続ける、探究心あふれる人
- ・英語をはじめとする国際的に重要な外国語の実践的な運用能力を高めるために、努力を惜しまない人
- ・探究心とコミュニケーション能力を用いて、諸問題を粘り強く話し合い、国際的な場で相互理解と交渉妥結に達しようとする人
- ・将来、国際的な場での活動への従事を目指す人
- ・外国人に対する日本語教師を目指す人

選抜の基本方針

第1次選考では、4技能をみる英語外部試験（TOEFL-iBT, IELTS（アカデミック・モジュール）、GTEC（CBTタイプ）、TEAPのいずれか）のスコア及び調査書、推薦

書、志願理由書の書類を総合的に審査します。第2次（最終）選考では面接を行います。面接では、論理的な思考や国際コミュニケーション能力、国際問題への関心などを中心に総合的に判定します。なお、調査書、推薦書、志願理由書も面接の際の参考とします。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

国際学類ではグローバル化する世界を多様な観点から理解し、異文化との〈しなやかな共生〉を実現することのできる真の国際人を送り出すことを目指しています。この目的の実現のために、本学入学前に「英語」や「政治・経済」、「世界史」、「地理」などの学習に積極的に取り組み、これらの教科の知識を十分に獲得しておくことを望みます。また真の国際人として活躍するためには、自国の歴史・文化についての教養も不可欠です。そこで志願者には、日本理解の基礎として「日本語」（国語）及び「日本史」の学習を強く推奨します。「日本語」での読み・書き・話すことへの能力は、大学で高度な知的訓練を受けるにあたり絶対必要な条件です。ただし、私費外国人留学生入試志願者で、英語プログラムを希望する者は、日本語能力を必要としません。国内外において外国の人々と、積極的にコミュニケーションする意欲をもつことも望みます。入学後の研究テーマによっては、これらに加えてグローバル・イシューに関する様々な教科を学ぶ必要があります。

《医薬保健学域》

【医学類】

医学類は、従来の医学部医学科に相当し、卒業者は医師国家試験の受験資格を与えられ、合格することによって医師としての資格を得ることになります。

その上で、医学類では、社会の変化に適応しつつ、多様かつ高度な医療ニーズに応え、プロフェッショナルな医師として成長・発展することが期待できる人材を受け入れます。

求める人材

明確な目的意識と強い使命感を有し、知識や技能の習得能力、論理的及び倫理的な思考力、協調性を有する人材を求めて選抜を行います。

なお、外国人留学生については、医師国家試験が日本語で行われる関係上、相応の日本語能力を求めます。

選抜の基本方針

選抜の方法としては面接試験等を行います。医学では幅広い正確な知識とそれに基づいた合理的な思考力が必要とされるため、高等学校等で学ぶ教科全般について高いレベルの基礎的な知識と、単なる知識ではない理解力・思考力を全教科にわたり、偏りなく身につけておくことが望まれますが、特に理数系科目に重点を置いています。また、自己表現能力、課外活動（ボランティア、部活、生徒会活動等）の経験などを通じて得られた多様な人々と協働して学ぶ態度（協働性）、やり遂げる力（継続力）等を面接試験で評価します。

【保健学類】

保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人

間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とします。教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成です。

保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成が行われており、このため募集単位は看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を設けます。

【看護学専攻】

看護科学は、人間の誕生から死までを包括的に捉え、人々が、グローバル化する社会、多様な環境に適応しながら健康的に質の高い生活を送ることを支援する学問です。看護学専攻では、健康に関わる知識と技術を体系的に学習します。さらに、学内及び学外の医療、保健及び福祉現場での実習を通じて、高い倫理観、専門職としての使命感、医療チームの一員としての責任を学びます。また、研究やゼミを通し、将来の看護科学を担う者として幅広い科学的知識、問題解決方法などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に、看護実践力のある指導者、教育者、研究者となるための基礎も身につけます。卒業時には、看護師、*保健師の国家試験受験資格を取得することができます。

※保健師課程については、平成26年度入学生から選択制としています。保健師として将来就職を希望する学生（最大50名：学類学生45名、編入学生5名）で、所定の科目を履修し、その単位を修得した者のみが、卒業時に「保健師国家試験受験資格」を取得できます。

【放射線技術科学専攻】

放射線技術科学は、放射線、磁気、超音波を使用した医療機器の原理や特性、情報処理技術、各種の医療画像形成法、人体の形態、機能並びに医薬品に対する生物学的な特性などを修得する学問です。診療放射線技師となるために必要な専門技術を修得するとともに、医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養います。また、研究室配属を通じて、将来の放射線技術科学を担う課題探求能力や、研究者となるための基礎も身につけます。卒業時には、診療放射線技師の国家試験受験資格を取得することができます。

【検査技術科学専攻】

検査技術科学は、主に病気の診断や治療効果判定に対して重要な情報を提供する臨床検査を学習する学問です。本専攻では臨床検査に関わる知識と専門技術を体系的に獲得し、医療現場での実習を通じて医療チームの一員である専門技術者としての役割を学びます。また、研究室配属を通じて、進歩する医療科学を担う深い科学的考察や革新的技術などを取得する能力を養います。卒業時には臨床検査技師の国家試験受験資格を取得することができます。

【理学療法学専攻】

理学療法学は、リハビリテーション医療の一専門分野です。種々の疾患や事故などにより、神経、筋、骨格、循環器、呼吸器などに損傷や障がいきたした人に対して、運動療法や物理療法を駆使して治療に当たります。理学療法学専攻で

は、理学療法士となるために必要な治療技術を科学的、実践的に修得するとともに、医療人としてあるべき人間性を育成します。卒業時には、理学療法士の国家試験受験資格を取得することができます。

【作業療法学専攻】

作業療法士として必要な知識、技術、コミュニケーション能力を修得し、専門職としての能力を高め、研究する態度をもつ人材を養成します。本学の作業療法教育は脳機能解析学や運動器障がいをはじめ、生活能力回復学の領域において幅広い分野の専門教員の下に行われています。作業療法の技術科学を修得し、研究を進め、技術を開発し、社会に役立ちたい人の入学を希望します。卒業時には、作業療法士の国家試験受験資格を取得することができます。

求める人材

【看護学専攻】

- ・看護の専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の健康、医療問題に対して国際的視野で貢献したいと強く願う人
- ・保健の分野で、新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・看護学及び看護の進歩のために、将来のリーダーとなる夢を持つ人

【放射線技術科学専攻】

- ・診療放射線技師として保健医療を支えることができる有能な人
- ・高度先進医療に対応し常に努力することができる人
- ・専門的な知識を習得するのみならず研究・思考することができる人
- ・患者の立場に立って行動・発言できる豊かな人間性を持つ人

【検査技術科学専攻】

- ・病める人に対する医療のために、知識や専門技術を高めて、社会に貢献する情熱を持つ人
- ・医療科学の分野で新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・臨床検査技術の進歩に貢献し、将来のリーダーとなる夢を持つ人

【理学療法学専攻】

- ・豊かな人間性と愛情を持ち、学習意欲の高い人
- ・社会のニーズに応え、努力を惜しまない人
- ・理学療法学の今後を担い、人類社会に貢献できる人

【作業療法学専攻】

- ・たゆまず努力して、自分の能力を高めようとする人
- ・専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の新たな能力を引出し活用する作業療法を修得し発展させたい人

選抜の基本方針

基礎学力に加え、面接で医療人としての適格性及び適

性の評価並びに調査書による総合評価をします。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

【看護学専攻】

論理的思考力・表現力を身につけるため、文系科目と理系科目の幅広い基礎学力の習得を望みます。

【放射線技術科学専攻】

科学的な視点で事象を理解するための基礎的な知識が必要であり、理科・数学を学んでおくことを望みます。また、文章を正確に読解し、事象に応じて的確に記述する国語・英語力の習得を望みます。

【検査技術科学専攻】

種々の臨床検査技術における基礎となる理論や科学的考察には、数学、物理、化学及び生物学の考え方や知識が必要で、高等学校においてこれらの教科の履修を望みます。また、情報収集及び発信に必要な英語の力を求めます。

【理学療法学専攻】

高等学校までに学ぶ国語、社会、数学、理科、英語について十分な基礎学力を身につけておくことが重要です。

【作業療法学専攻】

理系科目と文系科目の均衡がとれた幅広い基礎学力の習得を望みます。

本学では、各学類等が求める資質、意欲及び適性等について多面的・総合的に評価するため、書類審査（調査書、推薦書、志願理由書等）及び面接等にて選抜を行う「推薦入試」を設けています。

2. 障がいのある者等の出願

本学に入学を志願する者で、障がい等があり、受験及び修学上の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、本学に事前相談書等を提出し、相談してください。

なお、体幹及び両上下肢の機能障がいが著しく、本学の個別学力検査等において、「代筆解答」を必要とする者は、下記の期限にかかわらずできるだけ早い時期に本学へ相談してください。また、事前相談期限後に受験及び修学上の配慮を必要とする事態が生じた場合も、直ちに本学へ相談してください。

(1) 事前相談期限 令和元年10月8日(火)

(なお、事前相談期限を過ぎてからの相談の場合でも対応はしますが、必ずしも要望に沿うことができないこともあります。)

(2) 提出書類

- ① 事前相談書（次の事項及び連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）について記載したもの。様式は問いません。）
 - ア 志願者氏名
 - イ 志望学域・学類等及び受験予定の入試区分
 - ウ 障がいの種類・程度
 - エ 受験について配慮を希望する事項
 - オ 修学について配慮を希望する事項
 - カ 高等学校若しくは中等教育学校等でとられていた配慮
 - キ 日常生活の状況
 - ク その他参考となる事項
- ② 医師の診断書（上記ウ、エ、オ、キに関する項目も記載してください。）
- ③ 大学入試センター試験の「受験上の配慮事項審査結果通知書」又は「受験上の配慮事項決定通知書」の写し（大学入試センター試験で、受験上の配慮を認められた者のみ）
- ④ その他参考書類（障害者手帳の写し等）

(3) 相談先

金沢大学学生部入試課入学試験係

〒920-1192 金沢市角間町

電 話 076-264-5169, 5177～5179（平日午前9時から午後5時まで ※祝日、夏季休業及び年末年始を除く）

F A X 076-234-4042

E-mail boshu@adm.kanazawa-u.ac.jp

3. 問合せ先

電話での問合せは、平日（月曜日～金曜日 ※祝日、夏季休業及び年末年始を除く）午前9時から午後5時の間で本人に限ります。

また、志願者本人がこの学生募集要項を熟読し、必ず本人の責任で本入学者選抜に関するすべての事項を確認してください。

(1) 入学試験関係

入学試験に関する問合せは、下記へ行ってください。

学生部入試課入学試験係	〒920-1192 金沢市角間町	電 話 076-264-5169, 5177～5179 FAX 076-234-4042 E-mail boshu@adm.kanazawa-u.ac.jp
-------------	------------------	---

不測の事態が発生した場合の情報提供

不測の事態により、発表内容や試験時間等を変更する場合は、金沢大学 Web サイトに随時情報を掲載しますので、出願前や受験直前に必ず確認してください。

金沢大学（入試情報）Web サイト <https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>



(2) 修学関係

入学後の授業あるいは学生生活に関する問合せは、下記へ行ってください。

学域・学類		問 合 せ 先		
人間社会学域	法 学 類	人間社会系事務部 学生課教務係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-264-5603 Email n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp
	経 済 学 類			
	学 校 教 育 学 類			
	地 域 創 造 学 類			
医薬保健学域	国 際 学 類	人間社会系事務部 学生課教務係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-264-5603 Email n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp
	医 学 類			
	保 健 学 類			
医薬保健学域	医 学 類	医薬保健系事務部 学生課医学学務係	〒920-8640 金沢市宝町13-1	電話 076-265-2125 Email t-igaku1@adm.kanazawa-u.ac.jp
	保 健 学 類	医薬保健系事務部 保健学支援課保健学務係	〒920-0942 金沢市小立野5-11-80	電話 076-265-2515, 2516 Email t-igaku2@adm.kanazawa-u.ac.jp

4. 入試情報の提供

(1) 金沢大学（入試情報）Web サイト

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>



内 容	推薦Ⅰ (経済学類, 国際学類)	推薦Ⅱ (法学類, 学校教育学類, 地域創造学類, 保健学類)	推薦Ⅱ (医学類)
学生募集要項の公表	令和元年9月下旬～		
出願状況 (学域・学類等ごとの志願者数及び倍率)	令和元年11月13日(水) ～ 令和2年3月31日(火)	令和元年12月27日(金) ～ 令和2年3月31日(火)	
合格者(受験番号)の掲載 ^(注1)	国際学類(第1次選考) 令和元年11月20日(水) 午後3時 ～ 12月11日(水)	令和2年2月10日(月) 午後4時 ～ 3月31日(火)	第1次選考 令和2年2月6日(木) 午前10時 ～ 2月12日(水)
	経済学類, 国際学類(第2次(最終)選考) 令和元年12月11日(水) 午後3時 ～ 令和2年3月31日(火)		第2次(最終)選考 令和2年2月12日(水) 午後4時 ～ 3月31日(火)
入学者選抜試験実施結果 ・志願者, 受験者, 合格者及び入学者数 ・合格者の最高点, 最低点, 平均点 ^(注2)	令和2年4月16日(木)～令和3年3月31日(水)		

(注1) 金沢大学（入試情報）Webサイトに掲載する期間を示します。各学類が指定する発表場所に合格者の受験番号を掲示する場合は、この限りではありません。

(注2) 募集人員又は合格者のいずれかが10名未満の学域・学類等については、開示しません。

(2) 金沢大学入試情報アプリ（金沢大学公式アプリ）

金沢大学入試情報アプリ（スマートフォン利用者用）を開設しました。

本学の入試情報（入試日程，学生募集要項，入学者選抜方法等の変更／予告，インターネット出願登録サイト），学生募集イベント情報，学域・学類の紹介等を配信しています。

〈金沢大学入試情報アプリ〉
ダウンロード（無料）はこちらから



5. 入学試験の個人成績の開示

出願時に志願者からの成績開示請求の希望を受け、本人の令和2（2020）年度入試の個人成績を開示します。

(1) 請求方法

- ① 成績開示を希望する志願者は、インターネット出願登録サイトにおいて出願登録の際に、試験成績開示請求項目の「希望する」を必ず選択してください。
- ② 「希望する」を選択した場合、**1回の出願につき開示請求手数料700円が別途必要**です。入学検定料と併せて支払ってください。

（注）出願後のメール、電話等による個別の開示請求は受け付けません。

(2) 開示内容

- 本学が利用した大学入試センター試験の科目ごとの得点及び合計点（センター試験を課す入試のみ）
- 個別学力検査等の科目ごとの得点及び合計点

(3) 開示の時期・方法

令和2年5月1日（金）から6月30日（火）の間に郵送により通知します。

開示通知書は、出願登録の際に通知等を受ける場所・本人連絡先に入力した住所に郵送しますので、出願以降、開示の時期までの間に転居する予定の志願者は、確実に受領できる住所（保護者住所等）を登録してください。（高校・予備校の寮等の住所は登録しないでください。）

6月末までに届かない場合は入試課入学試験係へ連絡してください。

（注）インターネットで開示する方法に変更する場合があります。出願以降、開示の時期までの間、確実に受信できるメールアドレスを登録してください。

(4) 問合せ先

金沢大学学生部入試課入学試験係

電話 076-264-6192（平日午前9時から午後5時まで ※祝日、夏季休業及び年末年始を除く）

6. 個人情報の保護

金沢大学では、「国立大学法人金沢大学個人情報管理規程」等を制定し、本学が保有する個人情報の適正な管理と保護に努めています。

本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報及び入学手続時に提出していただく書類に記載されているすべての個人情報は、次の業務で利用します。

- (1) 入学者選抜及び入学手続に関わる業務
- (2) 入学後の学籍管理、修学指導に関わる業務及び健康診断等の保健管理に関わる業務
- (3) 入学後の本学ポータルサイト利用、学内LAN利用、図書館利用及び図書貸出し等の学内サービス業務
- (4) 入学料免除、授業料免除、奨学生選考等の修学支援に関わる業務
- (5) 入学料・授業料の納入に関わる業務及び収納業務を委託する金融機関での必要な業務
- (6) 入学者選抜に関する個人が特定できない形で行う調査研究業務
- (7) 卒業、修了者に対する学習成果等調査（アウトカムズ・アセスメント）、同窓会活動への支援等に関する業務
- (8) その他、個人が特定できない形で行う統計処理業務

なお、国公立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限って、合格及び入学手続等に関する個人情報を独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達します。

7. JAPAN e-Portfolio 学びのデータ

本学では、多面的・総合的評価の実現を目指しています。提出された学びのデータは、今後の入学者選抜改革に向けての参考及び入学試験の分析・追跡調査のために利用します。

なお、**入学者選抜には利用しないため、合否には一切影響しません。**また、**学びのデータ提出については任意とします。**提出する場合、JeP学びのデータ請求票を出力し、出願書類と一緒に郵送してください。

Ⅱ. 推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）

1. 募集人員

学域・学類		募集人員
人間社会学域	経済学類	10人
	国際学類	15人

- (注) 1. 国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、一人の志願者について、1つの大学・学部（学域・学類）に限ります。
2. 国際学類は、第1次選考と第2次（最終）選考により選抜を行い、第1次選考合格者に対して第2次（最終）選考を行います。
3. 合格者（入学手続者）が募集人員に満たなかった場合は、一般入試の合格者で補充します。
4. 原則として、入学後の転学類を認めません。

2. 推薦要件

学域・学類		推薦要件
人間社会学域	経済学類	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）の専門教育を主とする学科又は総合学科で専門教育に関する各教科・科目を20単位以上修得（見込みを含む）して平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、次のすべての要件を満たすもの (1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）における学習成績概評がA段階以上（評定平均4.3以上）に該当する者 (2) 出身学校長が責任を持って推薦できる者 2. 本学類への明確な志向と勉学の熱意を有する者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。
	国際学類	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、出身学校長が責任を持って推薦できるもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 本学類への明確な志向と勉学の熱意を有する者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。

3. 選抜方法

志望する学域・学類が課す小論文、面接等すべてを受験しなければ、失格とします。

学域・学類		選 抜 方 法
人 間 社 会 学 域	経済学類	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、TOEIC（L&R）、面接の結果及び提出書類（調査書、推薦書、志願理由書）等により総合して行います。なお、TOEIC（L&R）は100点満点に換算します。 小論文：現代の文化・社会・経済に関する和文の資料を与え、出題された論題について論述させます。 3. 配点：小論文 100点 TOEIC（L&R） 100点 面 接 100点 〈採点・評価基準〉 小論文：現代の文化・社会・経済に関する和文を読解させ、理解力、分析力、論理的思考力、表現力を評価します。 面 接：高校時代における体験、大学入学後の計画、大学の授業を理解するための基礎知識等を評価します。 調査書・推薦書：平素の学習活動の成果を確認するものとして、面接の参考とします。
	国際学類	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 第1次選考 提出書類（調査書、推薦書、志願理由書、英語外部試験のスコア）によって総合的に判定します。 英語外部試験：TOEFL-iBT, IELTS（アカデミック・モジュール）、GTEC（CBTタイプ）、TEAPのいずれか 3. 第1次選考結果は、令和元年11月20日（水）に本人あて通知します。 4. 第2次（最終）選考 第1次選考に合格した者に対して面接を実施します。なお、調査書、推薦書、志願理由書も面接の参考とします。 〈第2次（最終）選考評価基準〉 ① 大学での国際学の学習に必要な基礎的知識と関心を有しているか ② 日本語によるコミュニケーション能力を十分備えているか ③ 論理的な思考力を有し、自主的・主体的に課題に取り組む意欲は強いのか 5. 可否判定 第1次選考（100点満点）と第2次（最終）選考（100点満点）の結果を総合して行います。

4. 試験期日・試験時間

学 域 ・ 学 類		試 験 期 日 ・ 試 験 時 間		
人 間 社 会 学 域	経済学類	令和元年11月30日（土）	小論文 面 接	9:20～10:50 12:20～
	国際学類	令和元年11月30日（土）	〔第2次（最終）選考〕面 接	9:30～

（注）試験会場等の確認方法は、受験票に記載してありますので、受験票印刷後、確認してください。

Ⅲ. 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

1. 募集人員

学域・学類等				募集人員
人 間 社 会 学 域	法学類			10人
	学校教育学類	石川県教員希望枠		8人
		専修枠	国語・社会科・英語教育専修	3人
			数学・理科教育専修	3人
			音楽教育専修	4人
			美術教育専修	3人
			保健体育専修	5人
			家政教育専修	3人
			特別支援教育専修	5人
	地域創造学類	福祉マネジメントコース		5人
		環境共生コース		5人
		地域プランニングコース		5人
医 薬 保 健 学 域	医学類	一般枠		15人
		特別枠	石川県枠	未定※
			富山県枠	未定※
	保健学類	看護学専攻		15人
		放射線技術科学専攻		5人
		検査技術科学専攻		6人
		理学療法科学専攻		4人
		作業療法科学専攻		5人

- （注）1. 国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、一人の志願者について、1つの大学・学部（学域学類）に限ります。
2. ※医学類〔特別枠〕の募集は、石川県枠及び富山県枠ともに未定です。推薦要件、選抜方法等の詳細は、11月頃に金沢大学（入試情報）Webサイト（<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>）で確認してください。
3. 合格者（入学手続者）が募集人員に満たなかった場合は、一般入試の合格者で補充します。
4. 学校教育学類〔石川県教員希望枠〕の入学後の各専修への配属は、一般入試と同様に2年次からとします。
また、〔専修枠〕国語・社会科・英語教育専修及び数学・理科教育専修のそれぞれの専修への配属についても、2年次からとします。
5. 原則として、入学後の転学類・転専攻等を認めません。

2. 推薦要件

学域・学類等		推 薦 要 件
人	法学類	以下の1から4のすべての条件を満たす者 - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上（評定平均3.5以上）に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 推薦は、1校につき1名とします。
	学校教育学類 〔石川県教員希望枠〕	以下の1から4のすべての条件を満たす者 - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 出身学校長が人物・能力等、特に教育職員に就くにふさわしい資質・適性について責任を持って推薦できる者 - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 卒業後、石川県内の学校園に教員として勤務する強い意志を持つ者
	学校教育学類 〔専修枠〕 国語・社会科・英語 教育専修	以下の1から4のすべての条件を満たす者 - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上（評定平均3.5以上）に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 推薦は、1校につき2名以内とします。
	学	以下の1から4のすべての条件を満たす者 - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上（評定平均3.5以上）に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 推薦は、1校につき2名以内とします。
域	学校教育学類 〔専修枠〕 数学・理科教育専修	以下の1から4のすべての条件を満たす者 - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上（評定平均3.5以上）に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 推薦は、1校につき2名以内とします。

	学域・学類等	推 薦 要 件
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 [専修枠] 音楽教育専修	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上（評定平均3.5以上）に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。
	学校教育学類 [専修枠] 美術教育専修	以下の1から3のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 特に美術に優れ、美術教育に熱意を有し、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者
	学校教育学類 [専修枠] 保健体育専修	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が、次のいずれにも該当すると認め、責任を持って推薦できる者 (1) 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上（評定平均3.5以上）に該当する者 (2) 高等学校若しくは中等教育学校において、スポーツ活動（ダンスを含む）に積極的に取り組み、優れた能力を持つ者で、かつ、入学後も活動を続ける意思のあるもの (3) 人物及び学業成績がともに優れ、本学類（保健体育専修）に対する明確な志向と勉学の熱意を持つ者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。
	学校教育学類 [専修枠] 家政教育専修	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上（評定平均3.5以上）に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。

学域・学類等		推 薦 要 件
医 薬 保 健 学 域	医学類 〔一般枠〕	以下の1から3のすべての条件を満たす者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 次の(1)か(2)のいずれかに該当する者 - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評が㊤段階（評定平均4.3以上）に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの - 合格した場合、入学することを確約できる者 ※推薦要件の「㊤」とは、高等学校又は中等教育学校における学習成績概評がA段階（全体の評定平均値5.0～4.3）に属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀な者です。この場合、調査書に㊤と標示し、「備考」の欄にその理由を明示してください。
	保健学類 看護学専攻	以下の1から4のすべての条件を満たす者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 学業成績が優秀、人物に優れ、看護学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 推薦は、1校につき1名とします。
	保健学類 放射線技術科学専攻	以下の1から4のすべての条件を満たす者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 学業成績が優秀、人物に優れ、放射線技術科学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 推薦は、1校につき1名とします。
	保健学類 検査技術科学専攻	以下の1から4のすべての条件を満たす者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 学業成績が優秀、人物に優れ、検査技術科学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 推薦は、1校につき1名とします。
	保健学類 理学療法学専攻	以下の1から4のすべての条件を満たす者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 学業成績が優秀、人物に優れ、理学療法学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 推薦は、1校につき1名とします。
	保健学類 作業療法学専攻	以下の1から4のすべての条件を満たす者で、令和2年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの - 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 - 高等学校若しくは中等教育学校を平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者 - 通常の課程による12年の学校教育を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 - 学業成績が優秀、人物に優れ、作業療法学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 - 合格した場合、入学することを確約できる者 - 推薦は、1校につき1名とします。

3. 選抜方法

【留意事項】

1. 大学入試センター試験で、志望する学域・学類等が課すすべての教科・科目等を受験しなければ、出願無資格者となります。その場合は、個別学力検査等を受験することはできません。また、個別学力検査等で、志望する学域・学類等が課すすべての教科・科目等を受験しなければ失格となります。志望する学域学類等が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験する予定であるか、「大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表」で必ず確認してください。
2. 大学入試センター試験の「数学」のうち、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）においてこれらの科目を履修した者に限ります。
3. 大学入試センター試験の配点等について

- (1) 配点に※印を付してある教科は、選択教科を表します。
- (2) 大学入試センター試験で、指定した教科・科目数を超えて受験している場合は、指定した教科・科目数の範囲で高得点の順に教科・科目の成績を利用します。

ただし、『地理歴史』『公民』の受験科目を1科目と指定した学類等において2科目受験している場合及び「理科」の受験科目を1科目と指定した学類等において2科目受験している場合は、それぞれ受験した科目のうち第1解答科目の成績を利用します。なお、第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格となります。

また、人間社会学域地域創造学類環境共生コースに関しては、大学入試センター試験の『地理歴史』『公民』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲で高得点の上位2科目が『地理歴史』『公民』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。

（大学入試センター試験の『地理歴史』『公民』及び「理科②」の試験時間において2科目を選択する場合、解答順に前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とします。）

- (3) 大学入試センター試験で「数学」2科目又は「理科」2科目を課す学域・学類等については、2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。
- (4) 大学入試センター試験の「英語」にはリスニングテストが含まれており、成績は、筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点に圧縮して利用します。

なお、大学入試センター試験の「英語」のリスニングテストが免除の重度難聴者については、「英語」の筆記試験の成績（200点満点）を圧縮せずに利用します。

また、入学者選抜の配点にあたっては、学域・学類等に示されている大学入試センター試験の「外国語」の配点に換算します。

- (5) 大学入試センター試験の「英語」について、法学類、学校教育学類、地域創造学類、保健学類の推薦入試Ⅱにおいては、英語外部試験のスコアの提出を認め、TOEFL iBT：45～68、IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：3.0～6.0、GTEC（CBTタイプ）：910～1140、TEAP：246～304の場合は、大学入試センター試験の「英語」の得点の80%から100%の得点を、英語外部試験のスコアに応じて与えます。TOEFL iBT：68以上、IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：6.0以上、GTEC（CBTタイプ）：1140以上、TEAP：304以上の場合は、大学入試センター試験の「英語」の100%の得点を与えます。ただし、大学入試センター試験の「英語」の得点と比較して高得点の方を利用します。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

また、医学類の推薦入試Ⅱにおいては、英語外部試験（TOEFL iBT、IELTS（アカデミック・モジュール）、GTEC（CBTタイプ）、TEAP）のスコアの提出を認め、CEFRのC1相当以上のスコアを有する場合に、大学入試センター試験の「英語」の得点ではなく、総合評価に反映させます（C1相当以上のスコアとは、TOEFL iBT：95～120、IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：7.0以上、GTEC（CBTタイプ）：1350～1400、TEAP：375～400に相当します）。選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書、英語外部試験のスコア）を総合して行います。ただし、英語外部試験の受験は出願資格ではありません。

なお、英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

4. 各学域学類等の内容が表示してある表の下「注意事項」も、必ず確認してください。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	法学類	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		国語（「国語」）	100点
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」） 公民（「倫理, 政治・経済」） 数学（「数学Ⅰ・数学A」）と （「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1） 外国語（「英語」 ^{（注1）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1）	} から1 ※ 100点 （100×1） 100点 125点
合計 425点 〔4教科5科目〕			
(2) 面 接 400点			
〈採点・評価基準〉			
面 接：多面的な試問を行い、勉学意欲や資質等を総合的に評価します。			

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
人 間 社 会 学 域	法学類	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	} から1 ☐ 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「倫理, 政治・経済」	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	} から1 ☐ 必須 と ☐ 1つチェック
		外 国 語	「英語」 ^(注1) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	
		計	〔4教科5科目〕	☐ 計 科目

【法学類（推薦入試Ⅱ）】 注意事項

- (注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 〔石川県教員希望枠〕	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。 なお、本学類が課す大学入試センター試験の成績（500点満点）の得点が概ね375点（75％）以上を合格の基準とします。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		国語（「国語」）	100点
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」） 公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」） 数学（「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1）	} から1 ※ 100点 (100×1)
		理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」から2） 又は （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から1）	
		外国語（「英語」 ^{〔注1〕} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1）	100点
		合計	500点
		〔5教科6科目〕又は〔5教科7科目〕	
		(2) 面 接	300点
〈採点・評価基準〉			
面 接：多面的な試問を行い、勉学意欲並びに、石川県で教職に就くことの熱意・資質・適性等を総合的に評価します。			

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 〔石川県教員希望枠〕	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	} から1 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	
		理 科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	} から2 2つチェック
			又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	
		外 国 語	「英語」 ^{（注1）} 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	} から1 1つチェック
		計	〔5教科6科目〕又は〔5教科7科目〕	

【学校教育学類（推薦入試Ⅱ）】〔石川県教員希望枠〕注意事項

- （注1）大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3.（5）を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 〔専修枠〕 国語・社会科・ 英語教育専修	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		国語（「国語」）	200点
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」 から1又は2）	} から2 ^{（注1）} ※ 200点 （100×2）
		公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」から1）	
		数学（「数学Ⅰ・数学A」）と （「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」 から1）	100点
		理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」 から2） 又は （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」 から1）	100点
		外国語（「英語」 ^{（注2）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」 から1）	200点
		合計	800点
	〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕		
	(2) 面 接	300点	
	〈採点・評価基準〉		
	面 接：多面的な試問を行い、勉学意欲、人文・社会科学への関心、教職への意欲・資質・適性等を総合的に評価します。		

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 〔専修枠〕 国語・社会科・ 英語教育専修	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	から1 又は2 から2 ^{（注1）}
		公 民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	から1
		理 科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」 又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	から2 から1
		外 国 語	「英語」 ^{（注2）} 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	から1
		計	〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕、 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕	計 科目

【学校教育学類（推薦入試Ⅱ）】〔専修枠〕国語・社会科・英語教育専修 注意事項

（注1）大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』は、次のいずれかの組合せとします。

『「地理歴史」から2科目』又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目』

（注2）大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3.（5）を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 [専修枠] 数学・理科教育専修	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		国語（「国語」）	100点
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）	} から1 ※ 100点 (100×1)
		公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」）	
		数学（「数学Ⅰ・数学A」）と	
		（「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」 から1）	200点
		理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」 から2）と （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」 から1）	200点
		又は （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」 から2）	
外国語（「英語」 ^{（注1）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」 から1） 100点 合計 700点 〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕			
(2) 面 接 300点			
〈採点・評価基準〉 面 接：多面的な試問を行い、勉学意欲、自然科学（数学を含む）への関心、教職への意欲・資質・適性等を総合的に評価します。			

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 〔専修枠〕 数学・理科教育専修	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	} から1 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	
		理 科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	} から2 2つチェック
			と 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	
			又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	} から1 1つチェック
			又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	
		外 国 語	「英語」 ^{〔注1〕} 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	} から1 1つチェック
計	〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕	☐ 計 科目		

【学校教育学類（推薦入試Ⅱ）】〔専修枠〕数学・理科教育専修 注意事項

大学入試センター試験の「理科」のうち、「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目（例えば「物理基礎」と「物理」）を組み合わせることはできません。

（注1）大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3.（5）を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 [専修枠] 音楽教育専修	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、筆記、実技、面接の結果及び提出書類等（音楽活動実績書、調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。 2. 配点 (1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名 国語 （「国語」） 100点 外国語 （「英語」 ^{（注1）} ） 100点 合計 200点 〔2教科2科目〕	
		(2) 筆 記*	
		楽典	50点
		(3) 実 技*	
		新曲視唱	50点
		声楽、ピアノ、作曲から1種目選択	300点
		(4) 面 接	100点
		〈採点・評価基準〉	
		筆 記：楽典の基礎的知識を検査します。	
		実 技：演奏技術、表現力、ソルフェージュ能力等の観点から総合的に評価します。	
		面 接：志望動機、教職及び音楽に対する熱意と抱負等を試問により評価します。	
		音楽活動実績書：実技及び面接における評価のための参考資料とします。	

* 筆記試験及び実技

以下のとおり、「ア 共通受験種目」及び「イ 選択受験種目」を課します。

ア 共通受験種目

・筆記試験

楽典

筆記用具は各自用意してください。

・実技試験

新曲視唱：8～16小節程度。

視唱は固定ド、又は移動ドで歌ってください。

イ 選択受験種目

次のa～cの3種目から1種目を出願時に選択して受験してください。

a 声楽実技

次の(1)及び(2)からそれぞれ1曲を選択し、2曲を暗譜で歌ってください。

歌詞は原語とします。

(1) 次の3曲から1曲を選択。

A.Scarlatti : Se Florindo è fedele

V.Bellini : Vanne, o rosa fortunata

山田耕柞 : からたちの花

(2) 上記の3曲以外のイタリア歌曲又はドイツ歌曲の中から3分程度の1曲。

・声楽実技は本学が用意する伴奏者のピアノ伴奏で歌ってください。
・各自が提出した楽譜によりピアノ伴奏しますので、演奏する2曲の楽譜（各自が歌う調）の写しを出願時に提出してください。

b ピアノ実技

次の(1)及び(2)からそれぞれ1曲を選択し、2曲を暗譜で演奏してください。

(1) 次の①又は②から1曲を選択。

① バッハ：平均律ピアノ曲集第Ⅰ巻又は第Ⅱ巻から任意の1曲（プレリュードとフーガ）。

ただし、フーガが3声以上の曲とする。

② ベートーヴェン：任意のピアノソナタより、第1楽章又は終楽章。

- (2) 次の作曲家の作品の中から5分～15分程度の1曲（演奏する曲が多楽章の場合は、任意の楽章1つを1曲とみなします。）を選択。

ショパン、シューマン、ブラームス、リスト、ドビュッシー、ラヴェル、ラフマニノフ、スクリャービン

- ・演奏する2曲の楽譜の写しを出願書類に添えて提出してください。
- ・演奏は繰り返しを省略してください。

c 作曲実技

創作（創作時間45分程度）

与えられた旋律に対してピアノ伴奏を作曲し、その伴奏部分を演奏してください。

- ・創作時間には鍵盤楽器が使用できます。
 - ・筆記用具は各自用意してください。
- ※旋律課題の例題を公開しています。例題の郵送を希望する者は「作曲実技例題郵送希望」と明記し、返信用封筒（定形封筒に84円切手を貼り付け宛先を記入したもの）を同封の上、下記あてに申し込んでください。
〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学人間社会系事務部学生課入試係

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教科	科目名	
人間社会学域	学校教育学類 〔専修枠〕 音楽教育専修	国語	「国語」	☐ 必須
		外国語	「英語」 ^(注1)	☐ 必須
		計	〔2教科2科目〕	☐ 計 科目

【学校教育学類（推薦入試Ⅱ）】〔専修枠〕音楽教育専修 注意事項

- (注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 [専修枠] 美術教育専修	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、実技、面接（作品提出を含む）の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。 実 技：デッサン（用具として、鉛筆、消しゴム及びデッサン用具を持参してください。） 提出作品：自作による美術作品1点以上。分野、作品の大きさは自由とし、面接時に持参できるものとします。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		国語（「国語」）	} から1 ※ 200点 (200×1)
		外国語（「英語」 ^(注1) 、「ドイツ語」、「フランス語」、 「中国語」、「韓国語」から1）	
		地理歴史（「世界史B」、「日本史B」、「地理B」）	} から1
		公民（「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、 「倫理、政治・経済」）	
		数学（「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、 「情報関係基礎」から1）	} から1 ※ 200点 又は2 ^(注2) (200×1)
		理科（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、 「地学基礎」から2） 又は （「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1）	
合計 400点 〔2教科2科目〕又は〔2教科3科目〕			
(2) 実 技 400点 面 接（作品提出を含む） 200点			
〈採点・評価基準〉 実 技：形体に対する表現力を総合的に評価します。 面 接：多面的な試問を行い、美術教育についての関心、勉学意欲及び資質並びに提出作品等を総合的に評価します。			

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 〔専修枠〕 美術教育専修	国 語	「国語」 ^{〔注1〕}	☐
		外 国 語	「英語」 ^{〔注1〕} 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	☐
			から1	☐
			から1	☐
			から1	☐
			から1	☐
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	☐
		公 民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	☐
			から1	☐
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	☐
		理 科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	☐
			から2	☐
			又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	☐
			から1	☐
		計	〔2教科2科目〕又は〔2教科3科目〕	☐ 計 科目

【学校教育学類（推薦入試Ⅱ）】〔専修枠〕美術教育専修 注意事項

大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目が指定した科目以外の場合は、『「地理歴史」「公民」』の第2解答科目の成績は利用せず、指定した教科・科目の範囲で高得点の順に他教科の成績（「理科」の「基礎を付していない科目」については第1解答科目の成績）を利用します。ただし、「理科」については、「基礎を付した科目」2科目の合計得点又は「基礎を付していない科目」の第1解答科目の得点のうち、いずれか得点の高い成績を利用します。

〔注1〕大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

〔注2〕大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』、『「数学」「理科」』から2科目となるのは、「数学」2科目又は「理科」の「基礎を付した科目」2科目の場合のみです。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人間社会学域	学校教育学類 〔専修枠〕 保健体育専修	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接及びスポーツ活動実績書の結果を総合して行います。 なお、調査書、推薦書、志願理由書は、判定の基礎資料とします。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		パターンA	
		国語（「国語」）	200点
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）から1又は2	} から2 ^{（注1）} ※ 200点 （100×2）
		公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」から1）	
		数学（「数学Ⅰ・数学A」）と （「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1）	200点
		理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」から2） 又は （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から1）	100点
		外国語（「英語」 ^{（注2）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1）	200点
合計 900点 〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕			
パターンB			
国語（「国語」）	200点		
地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）	} から1 ※100点 （100×1）		
公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」）			
数学（「数学Ⅰ・数学A」）と （「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1）	200点		
理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」から2）と （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から1） 又は （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2）	200点		
外国語（「英語」 ^{（注2）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1）		200点	
合計 900点 〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕			
(2) 面 接（スポーツ活動実績評価を含む） 500点			
〈採点・評価基準〉			
面 接：高校時代のスポーツ活動実績、教育や体育・スポーツに関わる勉学意欲と資質、大学入学後の計画等を総合的に評価します。			

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表							
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目			
		教科	科目名				
人間社会学域	学校教育学類 〔専修枠〕 保健体育専修	パターンA	国語	「国語」	☐ 必須		
			地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」 から1 又は2	☐ ☐ ☐	2つチェック	
			公民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」 から1			☐ ☐ ☐
			数学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」 から1			☐ 必須 と ☐ ☐
			理科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」 又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 から2 から1	☐ ☐ ☐ ☐	2つチェック 又は 1つチェック (理科②で2科目受験する場合は、第1解答科目として受験すること)	
			外国語	「英語」^(注2) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」 から1	☐ ☐ ☐ ☐	1つチェック	
		計	〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕 〔6教科7科目〕 又は 〔6教科8科目〕		☐ 計 科目		
		パターンB	国語	「国語」	☐ 必須		
			地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」 から1	☐ ☐ ☐	1つチェック (地理歴史・公民で2科目受験する場合は、第1解答科目として受験すること)	
			公民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」 から1	☐ ☐ ☐		
			数学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」 から1	☐ 必須 と ☐ ☐	1つチェック	
			理科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」 と 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 から2 から1 から2	☐ ☐ ☐ ☐	2つチェック と 1つチェック 又は 2つチェック	
	外国語		「英語」^(注2) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」 から1	☐ ☐ ☐ ☐	1つチェック		
	計	〔5教科7科目〕 又は 〔5教科8科目〕		☐ 計 科目			

【学校教育学類（推薦入試Ⅱ）】〔専修枠〕保健体育専修 注意事項

(1) 「大学入試センター試験で課す教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。

(2) パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目（例えば「物理基礎」と「物理」）を組み合わせることはできません。

(3) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で5科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目＋「理科」の「基礎を付した科目」2科目＋「理科」の「基礎を付していない科目」1科目〕、以下のように成績を用います。

① 『「地理歴史」「公民」〕の第1解答科目

② 『「地理歴史」「公民」〕の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目（「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目）

(4) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目＋「理科」の「基礎を付していない科目」2科目〕、以下のように成績を用います。

① 『「地理歴史」「公民」〕の第1解答科目

② 「理科」の第1解答科目

③ 『「地理歴史」「公民」〕及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目

(注1) 大学入試センター試験において、パターンAの『「地理歴史」「公民」〕は、次のいずれかの組合せとします。

『「地理歴史」から2科目〕又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目〕

(注2) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法
人 間 社 会 学 域		1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。 2. 配点 (1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名 パターンA 国語（「国語」） 200点 地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」） から1又は2 } ※ 200点 公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, } (100×2) 「倫理, 政治・経済」から1) 数学（「数学Ⅰ・数学A」）と （「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1） 200点 理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」から2） 又は 100点 （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から1） 外国語（「英語」^(注2), 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1） 200点 合計 900点 〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕 パターンB 国語（「国語」） 200点 地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」） } 公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, } から1 ※ 100点 「倫理, 政治・経済」 } (100×1) 数学（「数学Ⅰ・数学A」）と （「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1） 200点 理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」から2）と （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から1） 200点 又は （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2） 外国語（「英語」^(注2), 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1） 200点 合計 900点 〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕 (2) 面 接 300点 〈採点・評価基準〉 面 接：多面的な試問を行い、家政教育に対する勉学意欲や資質等を総合的に評価します。
	学校教育学類 〔専修枠〕 家政教育専修	

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表								
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目				
		教科	科目名					
人間社会学域	学校教育学類 〔専修枠〕 家政教育専修	パターンA	国語	「国語」	☐ 必須			
			地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	から1 又は2	☐ ☐ ☐		
				公民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」		から1	☐ ☐ ☐
					から2 ^(注1)		2つチェック	
			数学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	から1	☐ ☐		
				理科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」 又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	から2 から1	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
			外国語		「英語」 ^(注2) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	から1	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
		計		〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕		☐ 計 科目		
		パターンB	国語	「国語」	☐ 必須			
			地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	から1	☐ ☐ ☐		
	公民			「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	から1		☐ ☐ ☐ ☐	
				1つチェック (地理歴史・公民で2科目受験する場合は、第1解答科目として受験すること)				
	数学		「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	から1	☐ ☐			
			理科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」 と 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	から2 から1	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐		
	外国語			「英語」 ^(注2) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	から1	☐ ☐ ☐ ☐ ☐		
			計	〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕		☐ 計 科目		

【学校教育学類（推薦入試Ⅱ）】〔専修枠〕家政教育専修 注意事項

- 「大学入試センター試験で課す教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
 - パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目（例えば「物理基礎」と「物理」）を組み合わせることはできません。
 - 『「地理歴史」「公民」と「理科」で5科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目＋「理科」の「基礎を付した科目」2科目＋「理科」の「基礎を付していない科目」1科目〕、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民」〕の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民」〕の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目（「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目）
 - 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目＋「理科」の「基礎を付していない科目」2科目〕、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民」〕の第1解答科目
 - 「理科」の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民」〕及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- (注1) 大学入試センター試験において、パターンAの『「地理歴史」「公民」〕は、次のいずれかの組合せとします。
 『「地理歴史」から2科目〕又は『「地理歴史」から1科目及び「公民」から1科目〕
- (注2) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 [専修枠] 特別支援教育専修	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		国語（「国語」）	100点
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）	} から1 ※ 100点 (100×1)
		公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」）	
		数学（「数学Ⅰ・数学A」）と	
		（「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」 から1）	100点
		理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」 から2）	100点
		又は （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」 から1）	
外国語（「英語」 ^(注1) , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」 から1）	100点		
合計 500点 〔5教科6科目〕又は〔5教科7科目〕			
(2) 面 接 300点			
〈採点・評価基準〉			
面 接：多面的な試問を行い、特別支援教育についての関心並びに勉学意欲や資質等を総合的に評価します。			

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
人 間 社 会 学 域	学校教育学類 [専修枠] 特別支援教育専修	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	} 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	
		理 科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	} 2つチェック
			又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	
		外 国 語	「英語」 ^{（注1）} 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	} 1つチェック
		計	〔5教科6科目〕又は〔5教科7科目〕	

【学校教育学類（推薦入試Ⅱ）】〔専修枠〕特別支援教育専修 注意事項

- （注1）大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3.（5）を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	地域創造学類 福祉マネジメント コース	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		国語（「国語」）	200点
		地理歴史（「世界史A」, 「世界史B」, 「日本史A」, 「日本史B」, 「地理A」, 「地理B」）	} から1 ※100点 (100×1)
公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」）			
	外国語（「英語」 ^(注1) ）	200点	
		合計 500点	
			〔3教科3科目〕
		(2) 面 接 500点	
		〈採点・評価基準〉	
		面 接：高校時代の体験，時事問題への関心，自主的・自発的行動力，入学後の勉学意欲等を総合的に評価します。	

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
人 間 社 会 学 域	地域創造学類 福祉マネジメント コース	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	} から1 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	☐ ☐ ☐ ☐
外 国 語	「英語」 ^(注1)	☐ 必須		
		計	〔3教科3科目〕	☐ 計 科目

【地域創造学類（推薦入試Ⅱ）】福祉マネジメントコース 注意事項

（注1）大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3.（5）を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	地域創造学類 環境共生コース	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		国語（「国語」） 地理歴史（「世界史A」, 「世界史B」, 「日本史A」, 「日本史B」, 「地理A」, 「地理B」から1） ^{（注2）} 公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」から1） ^{（注2）} 数学（「数学Ⅰ・数学A」, 「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1） 理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」から2） 又は （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から1） 外国語（「英語」 ^{（注3）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1）	から2 又は3 ^{（注1）} ※200点 （100×2）
		合計 200点 〔2教科2科目〕又は〔2教科3科目〕	
		(2) 面 接 400点	
		〈採点・評価基準〉 面 接：多面的な試問を行い、環境共生コースでの勉学意欲、課題への関心、資質等を総合的に評価します。	

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表					
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目	
		教 科	科 目 名		
人 間 社 会 学 域	地域創造学類 環境共生コース	国 語	「国語」	☐	2つ又は3つチェック （「理科」の「基礎を付していない科目」をチェックする者で、理科②で2科目受験する場合は、第1解答科目として受験すること）
		地 理 歴 史	「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
		公 民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	☐ ☐ ☐ ☐	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	☐ ☐ ☐ ☐	
		理 科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」 又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	☐ ☐ ☐ ☐ 又は ☐ ☐ ☐ ☐	
		外 国 語	「英語」 ^(注3) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
		計	〔2教科2科目〕又は〔2教科3科目〕	☐	
				計	科目

【地域創造学類（推薦入試Ⅱ）】環境共生コース 注意事項

- (注1) 大学入試センター試験において、「国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「理科」、「外国語」から3科目となるのは、「理科」の「基礎を付した科目」2科目と他教科の1科目の場合のみです。
- (注2) 大学入試センター試験の「地理歴史」「公民」を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲で高得点の上位2科目が「地理歴史」「公民」の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。
- (注3) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
人 間 社 会 学 域	地域創造学類 地域プランニング コース	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。なお、調査書、推薦書は面接の際に参考とします。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		パターンA	
		国語（「国語」）	200点
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）	} から2
		公民（「倫理、政治・経済」）	
		数学（「数学Ⅰ・数学A」）と	200点
		（「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」 から1）	
		理科（「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」 から2）	100点
又は			
（「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」 から1）	200点		
外国語（「英語」 ^{（注1）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」 から1）			
合計 900点			
〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕,			
〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕			
パターンB			
国語（「国語」）	200点		
地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）	} から1		
公民（「倫理、政治・経済」）			
数学（「数学Ⅰ・数学A」）と	200点		
（「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」 から1）			
理科	〔「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」 から2）と （「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」 から1）		
又は			
〔「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」 から2）	200点		
外国語（「英語」 ^{（注1）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」 から1）	200点		
合計 900点			
〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕			
(2) 面 接 400点			
〈採点・評価基準〉			
面 接：多面的な試問を行い、勉学意欲や資質等を総合的に評価します。			

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表										
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目						
		教科	科目名							
人間社会学域	地域創造学類 地域プランニングコース	パターンA	国語	「国語」	☐ 必須					
			地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	から2	☐ ☐ ☐ 2つチェック				
				公民			「倫理、政治・経済」	☐		
				数学			「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	から1	☐ 必須 と ☐ ☐ ☐ 1つチェック	
			理科		「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	から2	☐ ☐ ☐ ☐ 2つチェック			
					又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」					から1
				外国語	「英語」 ^(注1) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」			から1	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 1つチェック	
		計			〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕					
		パターンB	国語		「国語」	☐ 必須				
			地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	から1	☐ ☐ ☐ 1つチェック (地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること)				
				公民			「倫理、政治・経済」	☐		
				数学			「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	から1	☐ 必須 と ☐ ☐ ☐ 1つチェック	
			理科		「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	から2	☐ ☐ ☐ ☐ 2つチェック			
					と 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」					から1
	又は 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」			から2	☐ ☐ ☐ ☐ 2つチェック					
	外国語	「英語」 ^(注1) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」						から1	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 1つチェック	
		計	〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕			☐ 計 科目				

【地域創造学類（推薦入試Ⅱ）】地域プランニングコース 注意事項

- 「大学入試センター試験で課す教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
 - パターンBの「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目（例えば「物理基礎」と「物理」）を組み合わせることはできません。
 - 『「地理歴史」「公民」と「理科」で5科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目＋「理科」の「基礎を付した科目」2科目＋「理科」の「基礎を付していない科目」1科目〕、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民」の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民」の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目（「理科」の「基礎を付した科目」2科目を利用した場合は3科目）
 - 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目＋「理科」の「基礎を付していない科目」2科目〕、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民」の第1解答科目
 - 「理科」の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民」及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- (注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法
医 薬 保 健 学 域	医学類 [一般枠]	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）を総合して行います。 ただし、志願者数が募集人員に対して2倍程度を超えた場合には、大学入試センター試験の配点による成績の総得点により第1次選考を行うことがあります。その場合は、第1次選考 ^(注1) 合格者についてのみ第2次（最終）選考（口頭試問による面接）を実施します。 本学類が課す大学入試センター試験（800点満点）の得点が、概ね680点（85％）以上を合格の基準とします。
		2. 配点
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名
		国語（「国語」） 地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」） 公民（「倫理, 政治・経済」） 数学（「数学Ⅰ・数学A」）と （「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1） 理科（「物理」と「化学」） 外国語（「英語」） ^(注2) 合計 800点 [5教科7科目]
		100点 ※ 100点 (100×1) 200点 200点 200点 800点
		(2) 面 接（口頭試問） 200点 〈採点・評価基準〉 面 接：生命科学と人類の幸福に対する志、体験、資質等を総合的に評価します。

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
医 薬 保 健 学 域	医学類 〔一般枠〕	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	☐ ☐ ☐
		公 民	「倫理, 政治・経済」	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	☐ 必須 と ☐ ☐
		理 科	「物理」 と 「化学」	☐ 必須 と ☐ 必須
		外 国 語	「英語」 ^(注2)	☐ 必須
		計	〔5教科7科目〕	☐ 計 科目

【医学類（推薦入試Ⅱ）】〔一般枠〕注意事項

（注1）第1次選考にかかわる通知については、50ページの「Ⅴ. 合格者発表」の1.（2）を確認してください。

（注2）英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3.（5）を確認してください。なお、英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法		
医 薬 保 健 学 域	保健学類 看護学専攻	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。		
		2. 配点		
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名		
		国語（「国語」）	200点	
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）	} から1	※ 100点 (100×1)
		公民（「倫理, 政治・経済」）		
		数学（「数学Ⅰ・数学A」）と （「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1）	200点	
		理科（「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から1）	100点	
		外国語（「英語」 ^{（注1）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1）	200点	
		合計	800点 〔5教科6科目〕	
(2) 面 接（調査書、推薦書、志願理由書等を含む） 200点				
〈採点・評価基準〉				
面 接：医療人としての適格性を評価します。				

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
医 薬 保 健 学 域	保健学類 看護学専攻	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	} から1 ☐ 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「倫理、政治・経済」	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	} から1 ☐ 必須 と ☐ 1つチェック
		理 科	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	
		外 国 語	「英語」 ^(注1) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	} から1 ☐ 1つチェック
		計	〔5教科6科目〕	☐ 計 科目

【保健学類（推薦入試Ⅱ）】看護学専攻 注意事項

(注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法		
医 薬 保 健 学 域	保健学類 放射線技術科学専攻	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。		
		2. 配点		
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名		
		国語（「国語」）	100点	
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）	} から1	※ 100点 (100×1)
		公民（「倫理, 政治・経済」）		
		数学（「数学Ⅰ・数学A」）と		
		（「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1）	200点	
		理科（「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2）	400点	
		外国語（「英語」 ^(注1) , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1）	200点	
合計 1000点				
〔5教科7科目〕				
(2) 面 接（調査書、推薦書、志願理由書等を含む） 400点				
〈採点・評価基準〉				
面 接：医療人としての適格性や放射線技術科学専攻での勉強意欲などを総合的に評価します。				

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
医 薬 保 健 学 域	保健学類 放射線技術科学専攻	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	} から1 ☐ 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「倫理、政治・経済」	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	} から1 ☐ 必須 と ☐ 1つチェック
		理 科	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	
		外 国 語	「英語」 ^(注1) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	} から1 ☐ 1つチェック
		計	[5教科7科目]	☐ 計 科目

【保健学類（推薦入試Ⅱ）】放射線技術科学専攻 注意事項

- (注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法		
医 薬 保 健 学 域	保健学類 検査技術科学専攻	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。		
		2. 配点		
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名		
		国語（「国語」）	200点	
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）	} から1	※ 100点 (100×1)
		公民（「倫理, 政治・経済」）		
		数学（「数学Ⅰ・数学A」）と		
		（「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1）	200点	
		理科（「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2）	200点	
		外国語（「英語」 ^{（注1）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1）	200点	
合計 900点 〔5教科7科目〕				
(2) 面 接（調査書、推薦書、志願理由書等を含む） 200点				
〈採点・評価基準〉				
面 接：医療人としての適格性を評価します。				

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
医 薬 保 健 学 域	保健学類 検査技術科学専攻	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	} から1 ☐ 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「倫理、政治・経済」	
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	} から1 ☐ 必須 と ☐ 1つチェック
		理 科	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	
		外 国 語	「英語」 ^(注1) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	} から1 ☐ 1つチェック
		計	〔5教科7科目〕	☐ 計 科目

【保健学類（推薦入試Ⅱ）】検査技術科学専攻 注意事項

- (注1) 大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3. (5)を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法	
医 薬 保 健 学 域	保健学類 理学療法学専攻	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。	
		2. 配点	
		(1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名	
		国語（「国語」）	200点
		地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）	} から1
		公民（「倫理, 政治・経済」）	
		数学（「数学Ⅰ・数学A」）と	(100×1)
		（「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」から1）	200点
		理科（「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2）	200点
		外国語（「英語」 ^{（注1）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1）	200点
合計 900点			
〔5教科7科目〕			
(2) 面 接（調査書、推薦書、志願理由書を含む） 600点			
〈採点・評価基準〉			
面 接：医療人としての適性を評価します。			

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表					
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目	
		教 科	科 目 名		
医 薬 保 健 学 域	保健学類 理学療法学専攻	国 語	「国語」	☐ 必須	
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	} から1	☐ ☐ ☐ ☐ 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「倫理、政治・経済」		
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	} から1	☐ ☐ ☐ ☐ 1つチェック
		理 科	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」		
		外 国 語	「英語」 ^{（注1）} 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	} から1	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 1つチェック
		計	〔5教科7科目〕		

【保健学類（推薦入試Ⅱ）】理学療法学専攻 注意事項

- （注1）大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3.（5）を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

学域・学類等		選 抜 方 法
医 薬 保 健 学 域	保健学類 作業療法学専攻	1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書）により総合して行います。 2. 配点 (1) 大学入試センター試験で課す教科・科目名 国語（「国語」） 200点 地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」） } から1 ※ 100点 公民（「倫理、政治・経済」） (100×1) 数学（「数学Ⅰ・数学A」）と （「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」 から1） 200点 理科（「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」 から1） 100点 外国語（「英語」 ^{（注1）} , 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」 から1） 200点 合計 800点 〔5教科6科目〕 (2) 面 接（調査書、推薦書、志願理由書等を含む） 400点 〈採点・評価基準〉 面 接：医療人としての適性を評価します。

大学入試センター試験受験教科・科目 自己確認表				
学域・学類等		学域・学類等が課す教科・科目		受験する科目
		教 科	科 目 名	
医 薬 保 健 学 域	保健学類 作業療法学専攻	国 語	「国語」	☐ 必須
		地 理 歴 史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」 } から1	☐ ☐ ☐ } 1つチェック （地理歴史・公民で2科目受験 する場合は、第1解答科目と して受験すること）
		公 民	「倫理、政治・経済」	☐
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」 と 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」 } から1	☐ 必須 と ☐ ☐ ☐ } 1つチェック
		理 科	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 } から1	☐ ☐ ☐ ☐ } 1つチェック （理科②で2科目受験する場合 は、第1解答科目として受験 すること）
		外 国 語	「英語」 ^{（注1）} 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」 } から1	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ } 1つチェック
		計	〔5教科6科目〕	☐ 計 科目

【保健学類（推薦入試Ⅱ）】作業療法学専攻 注意事項

- （注1）大学入試センター試験の「英語」については、英語外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、20ページの【留意事項】3.（5）を確認してください。英語外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

4. 試験期日・試験時間

学 域 ・ 学 類 等				試 験 期 日	試 験 時 間	
人 間 社 会 学 域	法学類			令和2年2月 1日(土)	面 接 9:00～	
	学 校 教 育 学 類	石川県教員希望枠			面 接 9:00～	
		専 修	国語・社会科・英語教育専修			筆 記 9:00～9:30 実 技 9:40～ 面 接 13:00～
			数学・理科教育専修			
			音楽教育専修			
			美術教育専修			
			保健体育専修			
			家政教育専修			
			特別支援教育専修			
		地 域 創 造 学 類	福祉マネジメントコース		面 接 9:00～	
	環境共生コース					
	地域プランニングコース					
医 薬 保 健 学 域	医学類	一般枠		令和2年2月10日(月)	[第2次(最終)選考] 面 接 9:00～	
	保 健 学 類	看護学専攻		令和2年2月 1日(土)	面 接 9:00～	
		放射線技術科学専攻				
		検査技術科学専攻				
		理学療法学専攻				
		作業療法学専攻				

(注) 試験会場等の確認方法は、受験票に記載してありますので、受験票印刷後、確認してください。

Ⅳ. 出願手続

1. 出願方法

○ インターネット出願の流れ



インターネット出願により行います。出願完了には下記 (1) ～ (5) のすべての手続が必要です。

(1) インターネットによる出願情報の登録

(2) 入学検定料の支払

入学検定料 17,000円

入学検定料の他に、支払手数料として別途640円が必要です。詳細は、49ページの「4. 入学検定料の支払」を確認してください。

(3) 証明写真のアップロード

(4) 出願書類等の印刷

(5) 出願書類等の郵送

インターネット出願登録サイトへは、金沢大学（入試情報）Webサイト（<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>）からアクセスできます。

出願書類を郵送する際は、市販の角型2号封筒（240mm×332mm）に、インターネット出願登録サイトからA4サイズでカラー印刷した宛名ラベルを貼り、書留速達で郵送してください。

提出先 〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学学生部入試課

〈注意〉

インターネット出願は、インターネットでの登録及び入学検定料の支払いを行っただけでは出願完了とはなりません。出願期間内に、写真のアップロード及び45～46ページの提出書類を郵送（必着）し、不備がなかった場合、完了となります。

2. 出願期間

(1) 推薦入試Ⅰ

令和元年11月1日(金)～11月7日(木) (必着) ※郵送（書留速達）のみ

ただし、インターネット出願システムは、令和元年10月25日(金)から事前登録が可能です。

※ 締切日（令和元年11月7日(木)）を過ぎて到着した出願書類のうち、令和元年11月6日(水)までの発信局日付印のある書留速達郵便に限り受理。

(2) 推薦入試Ⅱ

令和元年12月16日(月)～12月20日(金) (必着) ※郵送（書留速達）のみ

ただし、インターネット出願システムは、令和元年12月6日(金)から事前登録が可能です。

※ 締切日（令和元年12月20日(金)）を過ぎて到着した出願書類のうち、令和元年12月19日(木)までの発信局日付印のある書留速達郵便に限り受理。

3. 出願書類等

出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び入学検定料の返還には応じません。ただし、出願受付後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者、国際学類又は医学類の第1次選考で不合格となった者には、入学検定料のうち、13,000円を返還します。ついては、入学検定料一部返還請求書を送付しますので令和2年2月28日(金)までに返還手続を行ってください。

出願書類に不備がある場合は、受理しません。

出願書類に不正な事実があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。

(1) インターネット出願登録サイトでアップロード作業が必要なもの

証明写真データ	インターネット出願登録及び入学検定料支払後、登録完了メールに記載されている URL から、志願者本人の写真のアップロードを行ってください。 (注) 志願者本人と判別できるもので、カラー・上半身・無帽・正面向き・無背景・直近3ヶ月以内に撮影した100KB～5MBのjpg又はpng形式のデータを使用してください。
---------	--

(2) インターネット出願登録サイトから印刷するもの

出願確認票（提出用）	インターネット出願登録後、申込確認ページよりA4サイズでカラー印刷し、提出してください。 (注) 印字されている内容に誤りがないか確認してください。 出願確認票は、入学検定料の支払及び証明写真のアップロードが完了しないと印刷できません。 出願確認票（確認用）とは異なるので、注意してください。
宛名ラベル	インターネット出願登録後、申込確認ページよりA4サイズでカラー印刷したものを郵送用の封筒に貼り付けてください（普通紙印刷で糊付け可）。 (注) 印字されている内容に誤りがないか確認してください。 封筒は、市販の角形2号封筒（240mm×332mm）を使用し、書留速達で郵送してください。

(3) その他必要な提出書類

大学入試センター試験成績請求票（推薦入試Ⅱの志願者のみ）	「令和2センター試験成績請求票^{推薦}国公立推薦入試用」を出願確認票の所定欄に貼って提出してください。
調査書	1 文部科学省所定の様式により出身学校長が作成し、厳封したもの。 2 被災その他の事情により調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通信簿その他志願者が提出できる書類を、また、これらの書類等を提出できない場合は、出身高等学校を所管する教育委員会、知事又は出身高等学校長が作成した調査書を発行できない旨の証明書を提出してください。
推薦書（様式1）	本学（入試情報）Webサイトよりダウンロードした所定の様式をA4サイズで印刷の上、出身学校長が作成し、厳封したもの。
志願理由書（様式2）	本学（入試情報）Webサイトよりダウンロードした所定の様式をA4サイズで両面印刷の上、志願者本人が自筆で記入したもの。 （詳細は、志願理由書裏面の記入上の注意を確認してください。）
学校案内等全校のカリキュラムがわかる印刷物（推薦入試Ⅰ経済学類）	様式任意。 志願者が所属する学科等のカリキュラム記載箇所が分かるように、付箋を付ける又はマーカー等で識別してください。
TOEIC（L&R）のスコア（写し）（推薦入試Ⅰ経済学類）	入学志願者のTOEIC（L&R）のスコアについて、公式認定証の写しを提出してください。なお、この写しにはスコア下部のLISTENINGおよびREADINGの評価（Score Descriptors, ABILITIES MEASURED）も含めてください。 (注1) インターネット上のスコアを印刷したものは、成績を証明する書類として認めません。 (注2) 出願時に提出した成績を証明する書類の原本は、入学手続において提出することとし、入学後の学類オリエンテーションで返却します。 (注3) 上記原本が提出されない場合又は提出書類に不備があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。

英語外部試験の成績証明書等(写し) (推薦入試Ⅰ国際学類 推薦入試Ⅱの英語外部試験利用者)	TOEFL-iBT, IELTS (アカデミック・モジュール), GTEC (CBTタイプ), TEAPのいずれかのスコアのうち、入学志願者が所持する成績を証明する書類の写しを提出してください。 (注1) GTECはCBTタイプに限ります。また、スコアは「OFFICIAL SCORE CERTIFICATE」のみ認めます。 (注2) 出願期間最終日(推薦入試Ⅰは令和元年11月7日、推薦入試Ⅱは令和元年12月20日)時点で各英語外部試験が定める有効期間内のスコアに限ります。 (注3) インターネット上のスコアを印刷したものは、成績を証明する書類として認めません。 (注4) 出願時に提出した成績を証明する書類の原本は、入学手続において提出することとし、入学後の学類オリエンテーションで返却します。 (注5) 上記原本が提出されない場合又は提出書類に不正があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。 (推薦入試Ⅱの英語外部試験の利用については、20ページの【留意事項】3.(5)を確認してください。)
音楽活動実績書 (様式3) (推薦入試Ⅱ学校教育学類 [専修枠] 音楽教育専修)	本学(入試情報)Webサイトよりダウンロードした所定の様式をA4サイズで印刷の上、自筆で記入したもの。
選択受験種目・曲目等届 (様式4) (推薦入試Ⅱ学校教育学類 [専修枠] 音楽教育専修)	本学(入試情報)Webサイトよりダウンロードした所定の様式をA4サイズで印刷の上、自筆で記入したもの。 選択受験種目において、声楽実技又はピアノ実技を選択した者は、演奏する2曲の楽譜の写しを提出してください。 (詳細は、25～26ページを確認してください。)
スポーツ活動実績書 (様式5) (推薦入試Ⅱ学校教育学類 [専修枠] 保健体育専修)	本学(入試情報)Webサイトよりダウンロードした所定の様式をA4サイズで印刷の上、出身学校長が作成したもの。 併せて、記入した成績等を証明する資料を提出してください。志願者が記載されている箇所が分かるように、付箋を付ける又はマーカー等で識別してください。 (詳細は、スポーツ活動実績書裏面の記入例及び記入上の注意を確認してください。)
学びのデータ (JAPAN e-Portfolioのデータ) (任意提出)	事前に「高大接続ポータルサイト JAPAN e-Portfolio」(https://jep.jp)へ活動記録を入力している方が対象です。提出したデータは、今後の入学者選抜改革に向けての参考及び入学試験の分析・追跡調査のために利用します。なお、入学者選抜には利用しないため、可否には一切影響しません。 「高大接続ポータルサイト JAPAN e-Portfolio」から「JeP学びのデータ請求票」を出力し、提出してください。 出力方法の詳細は、下記Webサイトを確認してください。 https://jep.jp/Eportfolio/statics/faq/syutsugan.html

(注) 志望する学域・学類等により、出願の際に必要な書類が異なりますので、47～48ページの表により確認してください。

推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）出願の際に必要な書類等

学域・学類		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		提出書類 証明写真データ	出願確認票	宛名ラベル	調査書	推薦書（様式1） ※	志願理由書（様式2） ※	学校案内等全校の カリキュラムがわかる印刷物	TOEIC（L&R）の スコア（写し）	英語外部試験のスコア（写し）	学びのデータ （JAPAN e-Portfolioのデータ）
人間社会学域	経済学類	○	○	○	○	○	○	○	○	—	△
	国際学類							—	—	○	△

（注）1. 該当する学域・学類の○印が、必要な出願書類等です。

2. ※は、様式を金沢大学（入試情報）Webサイトからダウンロードし、使用してください。印刷する際は、A4サイズで印刷して、書類を作成してください。

金沢大学（入試情報）Webサイト <https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>

3. 経済学類の「⑧TOEIC（L&R）のスコア（写し）」及び国際学類の「⑨英語外部試験のスコア（写し）」については、14ページ及び45～46ページを確認してください。

4. △印の「⑩学びのデータ（JAPAN e-Portfolioのデータ）」は、事前に「高大接続ポータルサイト JAPAN e-Portfolio」（<https://jep.jp>）へ活動記録を入力している者のみ提出してください。（詳細は12ページ及び46ページを確認してください。）

推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）出願の際に必要な書類等

学域・学類等			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
提出書類			証明写真データ	出願確認票	宛名ラベル	調査書	推薦書（様式1） ※	志願理由書（様式2） ※	英語外部試験のスコア（写し）	音楽活動実績書（様式3） ※	選択受験種目曲目等届（様式4） ※	スポーツ活動実績書（様式5） ※	学びのデータ （JAPAN e-Portfolioのデータ）	その他
人間社会学域	法学類													
	学校教育学類	石川県教員希望枠												
		国語・社会科・英語教育専修								—	—			—
		数学・理科教育専修										—		
		音楽教育専修								○	○			○
		美術教育専修	○	○	○	○	○	○	△				△	—
		保健体育専修										○		○
		家政教育専修												
		特別支援教育専修								—	—			
	地域創造学類	福祉マネジメントコース										—		—
		環境共生コース												
		地域プランニングコース												
医薬保健学域	医学類	一般枠	○	○	○	○	○	○	△	—	—	—	△	—
	保健学類	看護学専攻												
		放射線技術科学専攻												
		検査技術科学専攻	○	○	○	○	○	○	△	—	—	—	△	—
		理学療法学専攻												
		作業療法学専攻												

（注）1. 該当する学域・学類等の○印が、必要な出願書類等です。

2. ※は、様式を金沢大学（入試情報）Webサイトからダウンロードし、使用してください。印刷する際は、A4サイズで印刷して、書類を作成してください。

金沢大学（入試情報）Webサイト <https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>

3. △印の「⑦英語外部試験のスコア（写し）」は、英語外部試験を利用する者のみ提出してください。（詳細は20ページ及び46ページを確認してください。）

4. △印の「⑪学びのデータ（JAPAN e-Portfolioのデータ）」は、事前に「高大接続ポータルサイト JAPAN e-Portfolio」（<https://jep.jp>）へ活動記録を入力している者のみ提出してください。（詳細は12ページ及び46ページを確認してください。）

5. 学校教育学類〔専修枠〕音楽教育専修の「⑫その他」については、選択受験科目において声楽実技又はピアノ実技を選択した者は、演奏する2曲の楽譜の写しを提出してください。（詳細は25～26ページを確認してください。）

6. 学校教育学類〔専修枠〕保健体育専修の「⑫その他」については、「⑩スポーツ活動実績書」（様式5）に記入した成績等を証明する資料を提出してください。（詳細はスポーツ活動実績書裏面の記入例及び記入上の注意を確認してください。）

4. 入学検定料の支払

(1) 入学検定料 17,000円

入学検定料の他に、支払手数料として別途640円が必要です。

(2) 支払期間

推薦入試Ⅰ 令和元年10月25日(金)～11月 7日(木)

推薦入試Ⅱ 令和元年12月 6日(金)～12月20日(金)

(3) 支払方法

コンビニエンスストア、銀行ATM (Pay-easyでの支払)、クレジットカード (VISA, MasterCard, JCB, AMERICAN EXPRESS, Diners Club) 及びネットバンキング (ジャパンネット銀行及びセブン銀行の2行は利用できません。) のいずれかで支払可能です。

(注) 1. 銀行窓口での支払はできません。

2. コンビニエンスストアに設置されている銀行ATMでの支払はできません。

3. クレジットカード及びネットバンキングの名義は、志願者と同一である必要はありません。

4. 出願書類受理後は、いかなる理由があっても入学検定料の返還には応じません。

ただし、入学検定料の支払後、出願しなかった場合は返還手続を行うことができますので、令和2年2月28日(金)までに下記担当へ連絡してください。

※開示請求手数料を支払っている場合、入学検定料と併せて返還します。

担当 財務部財務管理課出納係

〒920-1192 金沢市角間町

電話 076-264-5066

E-mail syunyu@adm.kanazawa-u.ac.jp

5. 受験票の印刷

以下の日程で、インターネット出願登録サイトより受験票の印刷が可能です。「申込確認画面」からログインし、A4サイズで印刷してください。

推薦入試Ⅰ……………令和元年11月13日(水)

推薦入試Ⅱ……………令和元年12月27日(金)

(1) 受験票には、受験上の注意・試験会場案内が確認できるWebサイトのURL及び2次元コードがあります。必ずアクセスして確認の上、受験してください。

(2) 氏名等に間違いがある場合には、学生部入試課入学試験係へ連絡してください。

連絡先 076-264-5169, 5177～5179

(3) 試験当日は、印刷した受験票及び大学入試センター試験受験票(推薦入試Ⅱの志願者のみ)を必ず持参してください。

(4) 「受験票」及び「大学入試センター試験受験票(推薦入試Ⅱの志願者のみ)」は、入学手続時にも必要です。それまで、大切に保管してください。

V. 合格者発表

合格者の受験番号を学内掲示場及び金沢大学 Web サイトにおいて発表します。
 合格者には、合格通知書・入学手続要項を送付します。出身学校長には、選抜の結果を通知します。
 なお、電話等による合否の照会には応じません。
 金沢大学（入試情報）Web サイト <https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>



1. 発表日時

- (1) 推薦入試Ⅰ（経済学類，国際学類）
令和元年12月11日（水）午後3時（予定）
 （国際学類の第1次選考合格者発表は、令和元年11月20日（水）午後3時（予定）です。志願者全員に第1次選考結果通知書を送付します。）
- (2) 推薦入試Ⅱ（法学類，学校教育学類，地域創造学類，保健学類）
令和2年2月10日（月）午後4時（予定）
 （医学類）令和2年2月12日（水）午後4時（予定）

※医学類第1次選考合格者発表について

第1次選考を実施した場合は、第1次選考合格者の受験番号を医学類掲示場及び金沢大学（入試情報）Web サイトにおいて発表するとともに、すべての志願者及び出身学校長に第1次選考結果通知書を送付します。
 第1次選考を実施しなかった場合は、実施しなかった旨を医学類掲示場及び金沢大学（入試情報）Web サイトにおいて発表しますので、確認してください。
 発表日時：令和2年2月6日（木）午前10時（予定）
 発表場所：医学類F棟1階 正面玄関掲示板（宝町キャンパス）
 Web サイト：<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission>
 第1次選考合格者（第1次選考を実施しなかった場合は志願者全員が対象）は、受験票に記載されている2次元バーコードからアクセスして「面接試験受験上の注意」を確認してください。

2. 発表場所

学域・学類		発表場所	学域・学類		発表場所
人間社会学域	法学類	人間社会第2講義棟1階 学生課前掲示板 （角間キャンパス）	医学類		医学類F棟1階正面玄関掲示板 （宝町・鶴間キャンパス）
	経済学類				
	学校教育学類		医薬保健学域		保健学類1号館正面玄関 （宝町・鶴間キャンパス）
	地域創造学類				
	国際学類				

（注）合格者であるにもかかわらず、合格通知書等が届かない場合は、下記に問い合わせてください。
 問合せ先 学生部入試課入学試験係
 （電話 076-264-5169, 5177～5179, E-mail boshu@adm.kanazawa-u.ac.jp）

3. 推薦入試に合格しなかった場合の取扱い

推薦入試に合格しなかった者のうち、一般入試（前期日程，後期日程）で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で、所要の手続により一般入試（前期日程，後期日程）に出願を行ったものに限り、一般の入学志願者と同様に一般入試（前期日程，後期日程）の個別学力検査等を受験することができます。

Ⅵ. 学生生活

1. 入学手続

(1) 入学手続期間及び手続方法

入学手続の詳細は、「合格通知書」とともに送付する「入学手続要項」を確認してください。

区 分	入学手続期間	入学手続方法
推薦入試Ⅰ 推薦入試Ⅱ（法学類，学校教育学類， 地域創造学類，保健学類）	令和2年2月12日（水） ～2月18日（火）（必着）	郵送のみ 持込み不可
推薦入試Ⅱ（医学類）	令和2年2月18日（火） ～2月19日（水）	郵送 令和2年2月18日（火）必着 持込み 2月18日（火）・19日（水）

(2) 提出先

金沢大学学生部入試課入学試験係（角間キャンパス）

(3) 留意事項

- ① 本学の推薦入試合格者は，入学辞退許可を得た場合を除き，他の国公立大学（独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除きます。）の個別学力検査（一般入試）を受験しても合格者とはなりません。
- ② 入学を辞退する場合は，出身学校長と連署で令和2年2月18日（火）までに入学辞退願（任意様式）により本学学長に願い出て入学辞退許可を得なければなりません。
- ③ 入学手続期間中に入学手続を完了しない者は合格者としての権利を失い，他の国公立大学（独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除きます。）の個別学力検査（一般入試）を受験しても合格者とはなりません。

2. 入学時に必要な経費

(1) 入学科

- 282,000円（予定）

（注）上記の金額は予定額であり，入学時に入学科を改定した場合には，改定時から新入学科を適用します。

(2) その他必要な経費

学域・学類		保険 期間	納入すべき 保険料	内訳	
				学研災	付帯賠償
人間社会学域（全学類）		4年間	4,660円	3,300円	1,360円
医薬保健学域	医学類	6年間	7,800円	4,800円	3,000円
	保健学類	4年間	5,370円	3,370円	2,000円

詳細は合格通知書とともに送付する「入学手続要項」を確認してください。

3. 学生教育研究災害傷害保険（学研災）及び学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）

金沢大学では，学生生活における事故に備え，**学研災及び付帯賠償への加入を義務付けています**。いずれの保険も，全国の大学・短期大学の学生を対象とし，公益財団法人日本国際教育支援協会が取り扱っている補償制度です。

学 研 災：国内外において，①教育研究活動中に生じた急激かつ偶然な外来の事故，②通学中，学校施設等での移動中の事故によって身体に被る傷害（ケガ）に対して保険金が支払われます。

付帯賠償：国内外において，正課，学校行事，課外活動又はその往復において，他人にケガを負わせた場合，他人の財物を損壊した場合等により，法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について保険金が支払われます。付帯賠償と学研災の両方への加入が必須です。

4. 入学科免除・入学科徴収猶予

大学等における修学の支援に関する法律の公布・施行により，令和2年度から制度を大幅に変更する予定です。詳細は，別途本学Webサイト等でお知らせします。

5. 授業料の納入

- 授業料前期（第1・2クォーター）分 267,900円（予定）（年額 535,800円（予定））

授業料の納入方法は、本学指定の金融機関が、学生等の開設した預金口座から自動的に授業料を口座振替する「預金口座振替制度」とします。合格通知書とともに送付するパンフレット「授業料の納入について」を確認し、直ちに手続きしてください。

（注）上記の金額は予定額であり、入学時又は在学中に授業料を改定した場合には、改定時から新授業料を適用します。

6. 授業料免除

大学等における修学の支援に関する法律の公布・施行により、令和2年度から制度を大幅に変更する予定です。詳細は、別途本学Webサイト等でお知らせします。

7. 金沢大学学生特別支援制度

本学に在籍する学生の学習・研究意欲を向上させるとともに、学生生活において国際交流・社会貢献に対する意欲を引き出すことを目的とした、**本学独自の支援制度**があります。

詳細は、次のWebサイトを参照し、各担当係に問い合わせてください。

https://www.kanazawa-u.ac.jp/campuslife/economic/special_support



8. 奨学金

本学で扱っている奨学金には、日本学生支援機構、地方公共団体及び民間育英団体の奨学金があります。主に学業成績が優秀かつ学資支弁の困難な学生を対象とし、学力・家計状況等を審査の上、貸与（または給付）の可否が決定されます。

(1) 日本学生支援機構の奨学金

大学等における修学の支援に関する法律の公布・施行により、令和2年度から制度が大幅に変更される予定です。詳細は、別途本学Webサイト等でお知らせします。

(2) その他の奨学金

地方公共団体や民間企業・財団等の奨学金があります。大学へ募集があった奨学金は本学Webサイト、アカンサスポータル等でお知らせしますので、希望する場合は、入学後に本学Webサイト等を確認し、案内に従って申し込んでください。

また、本学Webサイト等でお知らせする奨学金以外にも、各種団体が直接、個人応募を受け付けている場合があります。

(3) 外国人留学生の奨学金

私費外国人留学生には、主に次のような奨学金の制度があります。募集内容、応募手続等の詳細は、国際部留学企画課又は各学類の留学生担当係に問い合わせてください。

奨学団体名	奨学金の内容	支給期間
日本学生支援機構	月額 48,000円	1年
小林国際奨学財団	月額 150,000円	正規課程修了まで
ロータリー米山記念奨学会	月額 100,000円	最長2年
平和中島財団	月額 100,000円	1年
共立国際交流奨学財団	月額 100,000円又は60,000円	2年又は1年
SGH財団	月額 120,000円	2年

（注）奨学金の金額は、令和元年7月1日現在の実績（学域在学者対象分のみ）

9. 学生留学生宿舍

本学には、国際交流を促進しグローバル人材を育成することを目的に、外国人留学生と日本人学生が1つのユニット（男女別）で生活するシェアハウス型の学生寄宿舍「北溟」があります。

「北溟」は空室がある場合に限り、入居者を募集します。入居申請方法等詳細は、金沢大学Webサイトを確認してください。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/campuslife/livelihood/residence>



留学生は、各学類の留学生担当係へ入居を希望する旨をお知らせください。

宿 舎 名	北 溟（ほくめい）
所 在 地	〒920-1192 金沢市角間町
設 置 年 月	平成29年4月
定 員	外国人留学生 120名 日本人学生 80名 ※1ユニット 外国人留学生3名 日本人学生2名
入 居 期 間	原則2年間
募 集 人 数	男子 若干名 ・ 女子 若干名 （ユニットは男女別）
個 室	約10㎡ ベッド・机・椅子・本棚・クローゼット等
ユニット内共用部分	リビングダイニング・キッチン・トイレ・洗面洗濯・シャワー
生 活 費	寄 宿 料 月額 26,800円
	諸 経 費 月額 9,400円 ※家具家電設備・光熱水費等
	合 計 月額 36,200円

10. 学生寮

本学には、学生寮が2棟ありますが、いずれも令和5年3月で閉寮します。閉寮までの退寮を確約した者のみ入寮を許可します。

男子寮：泉学寮（せんがくりょう）

所在地 / 〒921-8031 金沢市野町5-8-10

定 員 / 168名 ※居室は各室2人部屋

募集人数 / 約70名

寄宿料 / 月額 700円

諸経費 / 月額 約15,000円

※光熱水費、夕食弁当（希望者のみ）等

女子寮：白梅寮（はくばいりょう）

所在地 / 〒921-8034 金沢市泉野町2-13-1

定 員 / 140名 ※居室は各室2人部屋

募集人数 / 約50名

寄宿料 / 月額 700円

諸経費 / 月額 約8,000円

※光熱水費等

(1) 入寮願の請求

下記のいずれかの方法で入寮願を取り寄せてください。

① 金沢大学Webサイトからダウンロード

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/campuslife/livelihood/residence>



② 郵送による請求

返信用封筒（長形3号：12cm×23.5cm 受信者の郵便番号・住所・氏名を明記し、94円切手を貼付）を学生支援課学生相談係あて送付してください。

(2) 入寮願の提出期間等

提 出 期 間	提 出 先	選考結果の通知
令和2年2月12日（水） ～2月18日（火）（必着）	54ページの「13. 申請書類等の請求及び照会先」参照	令和2年3月9日（月）

提出期間後の入寮希望者については、欠員がある場合に限り、入寮願の提出が可能です。提出期間が過ぎている場合は学生支援課学生相談係まで欠員の有無を確認してください。

【入寮願請求先及び欠員問合せ先】

54ページの「13. 申請書類等の請求及び照会先」を確認してください。

11. 保健管理センター

保健管理センターでは、学生の心身の健康の増進を図るため、医師、カウンセラー（公認心理師・臨床心理士）、看護師、保健師等によって、定期健康診断、健康相談、学生相談、応急手当等を行っています。また、学生の心身の成長を支援する学生支援プログラムを提供しています。

12. 携帯型パソコンの準備

(1) 本学での学修、研究生生活

インターネットが広く普及した現代のネットワーク社会で活躍できるように、本学の教育目標では、理系・文系を問わず「高度情報化社会に対応できる情報処理の基礎能力・総合力を持った人材育成」を重視しています。キャンパス内のほとんどの場所で無線LAN整備が完了し、ポータルサイト「アカンサスポータル」をネットワーク利用の入り口としています。

入学者はそれぞれ携帯型パソコンを準備することで、ネットワークに接続してアカンサスポータルに入り、パソコンから履修登録、授業での教員との連絡、e-learning教材による自習、レポートの提出、成績確認等を行います。更に、健康診断結果や、就職支援をはじめ学生生活全般に関する情報の取得や連絡をネットワークを介して行います。入学後すぐに開講する全学生必修科目「情報処理基礎」にて、受講者は各自の携帯型パソコンをネットワークに接続し、情報ネットワークの安全な利用方法、学類毎に必要なソフトウェアの利用方法等を学びます。

特別な事情がない限り、本学入学時までには携帯型パソコンを準備してください。

(2) 携帯型パソコンの条件

令和2年度入学者のための携帯型パソコンの必要条件、金沢大学生協から提供予定の金沢大学オリジナルモデルの案内については、合格通知の際にお知らせします。必要条件を満たしているパソコンを所有する場合には新たにパソコンを購入する必要はありませんが、新規購入を検討する場合には、合格通知に同封の情報を確認し、条件を満たすものを購入してください。

(3) マイクロソフト包括（全学）ライセンス

本学ではマイクロソフト社のソフトウェア（Office等）についての包括（全学）ライセンス契約を令和2年度も継続する予定です。この場合、本学の新入学者は、Officeソフトウェア一式を無償で使用できますので、購入の必要はありません。

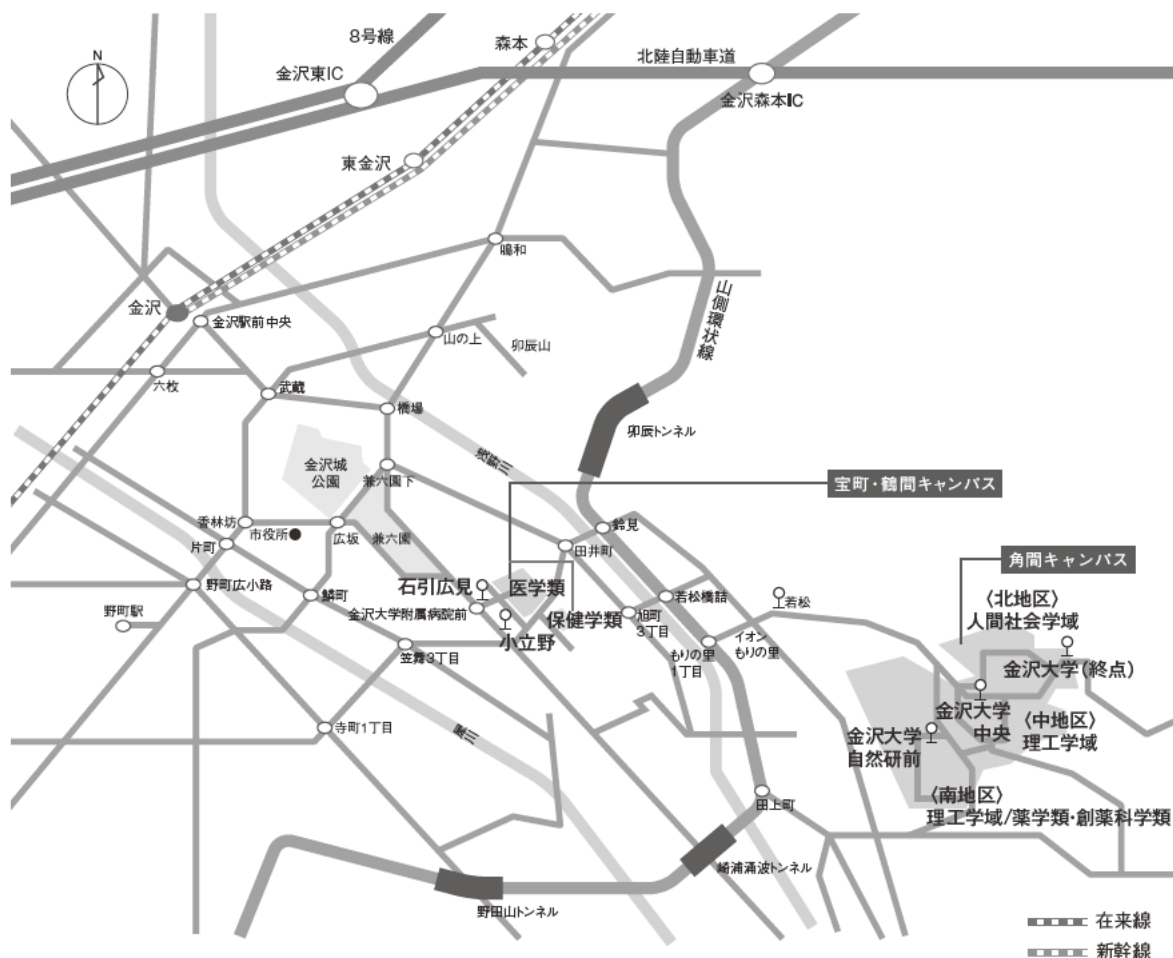
(4) 携帯型パソコンの無償貸与

経済的事情により携帯型パソコンを用意することが困難な場合には、大学所有のパソコンを半年間（1回のみ更新可能）無償貸与します。**入学料免除申請者及び入学料徴収猶予申請者を対象学生**としますので、これらの申請時に貸与の申し込みを行ってください。

13. 申請書類等の請求及び照会先

項 目		請 求 及 び 照 会 先		
○入 学 料 免 除 ○入 学 料 徴 収 猶 予 ○授 業 料 免 除		〒920-1192 金沢市角間町	金沢大学学生部学生支援課 学生支援係 (本部棟2階)	電話 076-264-5164 Email stsien@adm.kanazawa-u.ac.jp
○奨 学 金	私 費 外 国 人 留 学 生 を 除 く		金沢大学国際部留学企画課 留学支援係 (本部棟3階)	電話 076-264-5294 Email ryukou@adm.kanazawa-u.ac.jp
	私費外国人留学生			
○学 生 留 学 生 宿 舎			金沢大学学生部学生支援課 学生相談係 (本部棟2階)	電話 076-264-5167 Email gakuryo@adm.kanazawa-u.ac.jp
○学 生 寮				
○学生教育研究災害傷害保険 及び学研災付帯賠償責任保険			保健管理センター 事務室 (本部棟1階)	電話 076-264-5254 Email soudan@adm.kanazawa-u.ac.jp

1. 金沢大学所在地略図



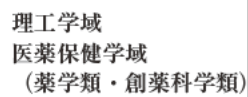
キャンパス名	学 域 等	交 通 機 関
角 間	事務局（学生部） 理工学域 医薬保健学域 （薬学類・創薬科学類）	JR金沢駅兼六園口（東口）バスターミナルから北陸鉄道バス 「金沢大学」行き乗車 「金沢大学自然研前」下車 (JR金沢駅から約35分)
	人間社会学域	JR金沢駅兼六園口（東口）バスターミナルから北陸鉄道バス 「金沢大学」行き乗車 「金沢大学」終点下車 (JR金沢駅から約40分)
宝町・鶴間	医薬保健学域 （医学類、保健学類）	JR金沢駅兼六園口（東口）又は金沢港口（西口）バスターミナルから北陸鉄道バス 「湯涌温泉」「東部車庫（橋場町経由）」「北陸大学」「金沢学院大学（橋場町経由）」行きのいずれかに乗車 「小立野」又は「石引広見」下車 (JR金沢駅から約20分)

(注) 乗り場のあるバスターミナルを事前に確認した上で、利用してください。

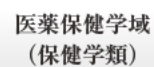
金沢大学（アクセス・キャンパスマップ）Webサイト（<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/>）



①角間キャンパス



2宝町・鶴間キャンパス



(様式1)

※受験番号	
-------	--

※印の欄は記入しないでください

令和2(2020)年度 金沢大学
推 薦 書

卒業見込 (卒業)学科名	
ふりがな 志願者氏名	男・女
生 年 月 日	西暦 年 月 日生

上記の者は、推薦入試・帰国子女入試（法学類，経済学類，国際学類）の推薦要件・出願資格に該当するものと認め、下記のとおり責任を持って推薦します。

西暦 年 月 日

所在地
高校名

学校長氏名 印
記載責任者 印

推薦する学域・学類等				コース・専攻・ 枠・専修	
学域		学類			
推薦理由					
※推薦入試(法学類)については、「入学者受入方針」にある「求める人材」に該当することがわかるように記入してください。					
学業状況					
成績 順位	第1学年	人中	位	第2学年	人中 位
	第3学年	人中	位	第4学年 修業年限4年の場合のみ	人中 位
人物					
特別活動，課外活動等					
その他					

裏面の「推薦書記入上の注意」をよく読んで記入してください。

推薦書記入上の注意

〈全学類共通〉

全 般	・本様式は、A4 サイズで印刷してください。 ・所定の提出書類以外の資格証や賞状の写等は添付しないでください。 ・出願書類受理後は、いかなる理由があっても記載事項の変更はできません。 ・パソコンでの作成も可。様式は、本学（入試情報）Web サイトからもダウンロードできます。 https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission
推薦する学域・学類等	・コース・専攻・枠・専修について、該当する項目に○を付け、名称を適切に記入してください（学校教育学類[専修枠]の場合は、専修名を省略せずに記入してください。また、医学類[特別枠]の場合は、石川県枠・富山県枠の区分も省略せずに記入してください）。
学 業 状 況	・教科・科目の学力所見及び勉学の自発性、計画性、理解力、創造的思考、能力等について記入してください。
成 績 順 位	・学年ごとの学年全体での成績順位を記入してください。ただし、複数の学科等がある場合は、本人の属する類型又は学科全体での成績順位としてください。
人 物	・人物、性格、適性等について記入してください。
特別活動・課外活動等	・ホームルーム、生徒会、学校行事、文化・体育・スポーツ活動等について記入してください。 ・校外での活動（任意団体、ボランティア等）があれば、その加入団体名及び活動状況を記入してください。 ・学業に関係していない資格（取得見込みも可）があれば記入してください。
そ の 他	・健康状況、生活態度、将来の希望、その他特記事項等について記入してください。

〈帰国子女入試（法学類、経済学類、国際学類）のみ〉

全 般	・出身学校長の作成する本推薦書に代えて、自己推薦書（帰国子女入試用）（様式10）を作成し、提出しても構いません。
-----	--

〈帰国子女入試（法学類）のみ〉

推 薦 理 由	・帰国子女入試法学類の志願者は、本欄を記入する必要はありません。
---------	--

〈推薦入試（経済学類）のみ〉

全 般	・学校案内等全校のカリキュラムがわかる印刷物を添付してください。 ・卒業見込学科名は学校独自の類やコース等ではなく、正式名称で記入してください。
学 業 状 況	・学業に関係している資格（取得見込みも可）があれば記入してください。

※受験番号

※印の欄は記入しないでください

令和2(2020)年度 金沢大学
志願理由書（推薦入試・帰国子女入試用）

志願学域・学類等	学 域	ふりがな			
	学 類	氏名	男・女		
	コース・専攻・ 枠・専修				
		生年月日	西暦	年	月 日生

・志願理由

[illegible]

裏面の「志願理由書記入上の注意」をよく読んで、横書きで記入してください。

(25字×20行=500字)

令和2(2020)年度 金沢大学 音楽活動実績書

氏 名		性別	男 ・ 女 (○で囲む)
選択する種目	a 声楽 ・ b ピアノ ・ c 作曲 (○で囲む)		
習学歴			
活動歴			
発表会・コンクール等の名称	年度 (西暦)	主催者 (開催会場)	成績・曲目等
個 ・ 団		()	
個 ・ 団		()	
個 ・ 団		()	

- (注) 1. 本様式は、A4サイズで印刷の上、自筆で記入してください。
2. 習学歴の欄には、指導を受けた教師等の個人名を記入することはできません。
3. 活動歴の欄には、学校の内外で行ってきた音楽活動について記入してください。
4. 発表会・コンクール等の活動があれば、優先順位の高いものを3つまで記入してください。
個人活動の場合は「個」、団体活動の場合は「団」を○で囲んでください。

令和2(2020)年度 金沢大学 音楽活動実績書(記入例)

氏 名	金 沢 太 郎	性別	①男・女(○で囲む)
選択する種目	①a声楽・bピアノ・c作曲(○で囲む)		
習学歴 6歳からピアノを習い始める。小学校時代は吹奏部に所属してクラリネットも吹いた。中学・高校とコーラス部に所属し、高校2年から声楽の個人レッスンを受け始め、今日に至る。			
活動歴 6歳から13歳まで毎年ピアノの発表会に出演した。高校のコーラス部ではバスパートのパートリーダーを務め、文化祭の校内合唱コンクールでは指揮者としてクラス合唱をまとめた。 文化祭の演劇部公演で音楽を担当し、選曲のほかピアノソロ曲を創作し使用した。校内合唱祭でディズニー作品を女声四部合唱に編曲し演奏した。			
発表会・コンクール等の名称	年度 (西暦)	主催者(開催会場)	成績・曲目等
NHK 全国学校音楽コンクール 石川県大会 個・①団	2018	NHK (金沢歌劇座)	金賞
全国高等学校総合文化祭 ①個・団	2019	高等学校文化連盟 (愛知県芸術劇場)	Gia il sole dal Gange Ombra mai fu
個・団		()	

- (注) 1. 本様式は、A4サイズで印刷の上、自筆で記入してください。
 2. 習学歴の欄には、指導を受けた教師等の個人名を記入することはできません。
 3. 活動歴の欄には、学校の内外で行ってきた音楽活動について記入してください。
 4. 発表会・コンクール等の活動があれば、優先順位の高いものを3つまで記入してください。
 個人活動の場合は「個」、団体活動の場合は「団」を○で囲んでください。

※受験番号

※印の欄は記入しないでください

令和2(2020)年度 金沢大学 選択受験種目・曲目等届

志願者氏名		性別	男・女
-------	--	----	-----

学校教育学類〔専修枠〕音楽教育専修の志願者は、実技の〔イ 選択受験種目〕のa～cの3種目から1種目を選択し、該当欄に選択曲目等を記入してください。

※学生募集要項25～26ページを確認してください。本様式は、A4サイズで印刷の上、自筆で記入してください。

イ 選択受験種目

a 声楽実技

- (1) 作曲者 () 曲名 ()
- (2) 作曲者 () 曲名 ()

b ピアノ実技

- (1) ①又は②のいずれかを選択

①バッハ 平均律 第 () 巻より 第 () 番 () 調

②ベートーヴェン ソナタ第 () 番 作品番号 ()
第 () 楽章

- (2) 作曲者 ()
曲 名 ()

c 作曲実技

※受験番号	
-------	--

※印の欄は記入しないでください

令和2(2020)年度 金沢大学 人間社会学域 学校教育学類[専修枠] 保健体育専修 推薦入試用
スポーツ活動実績書

ふりがな 志願者氏名	男 ・ 女	西暦	年	月	日生
特技とするスポーツ競技種目					
身長		cm	体重		
			kg		

主なスポーツ活動実績（主要なものを3つ記入し、裏面の記入上の注意「その他」の1に記載の書類を必ず添付してください。）

	大会名・主催者	種別	開催年月・開催地	大会区分	成 績	出場者数	出場に至る選抜方法等
1							
2							
3							

記入責任者氏名 印 志願者との関係（ ）

以上のとおり相違ないことを証明します。

西暦 年 月 日

所在地

学校名

学校長氏名

印

記入例及び記入上の注意

主なスポーツ活動実績（記入例）

	大会名・主催者	種別	開催年月・開催地	大会区分	成 績	出場者数	出場に至る選抜方法等
例1	平成〇〇年度全国高等学校総合体育大会 バレーボール競技 全国高等学校体育連盟 主催	女子 団体	〇〇〇〇年〇月 大阪市舞州障害者 スポーツセンター	全国大会	予選リーグを勝ち抜き、 決勝トーナメント戦出 場、2回戦敗退、計3試 合にレギュラー選手（リ ベロ）として出場。ベス トレシーバー賞獲得。） 詳細は別紙資料。	15チーム	石川県大会予選上位2 チームが北信越大会に出 場。5県10チームのう ち、優勝、準優勝チーム が全国大会に出場した。
例2	令和〇〇年度石川県高 等学校総合体育大会 「体操」競技 石川県高等学校体育連 盟・石川県教育委員会 主催	男子 体操競技 個人総合	〇〇〇〇年〇月 石川県小松市木場 潟スポーツ研修セ ンター	県内大会	体操（体操競技）男子個 人総合3位入賞（別紙資 料参照）	8名参加	県内高等学校選手の参加 申し込みによる（予選な し）。
例3	第〇回全国高等学校ダ ンスフェスティバル （社）日本女子体育連 盟・神戸市・神戸市教 育委員会主催	男女団体 創作コン クール部門	〇〇〇〇年〇月 神戸文化ホール	全国大会	創作コンクール部門の予 選に出場した。（資料参 照）	80チーム	全国高等学校チームの参 加申し込みによる（予選 なし）。

記入上の注意

- 1. 本様式は、A4サイズで印刷の上作成してください。
- 2. 「大会名・主催者名」には、志願者本人が高等学校（中等教育学校の後期課程）3年間に行ったスポーツ活動の中で、最も優秀と思われる実績を得た活動順に、正式大会名称及び主催者名を記入してください。
- 3. 「種別」には、「男・女」、「団体」「個人」「総合」、「シングルス」「ダブルス」「級別」「部門」等の区分を記入してください。また同一大会で団体・個人の双方に出場したり、複数種目に出場した場合にはそれぞれ別々の欄に記入してください。
- 4. 「開催年月・開催地」には、大会が開催された年月（西暦）、及び開催都道府県、市町村名、競技会場名の順に記入してください。
- 5. 「大会区分」には、「国際大会」、「全国大会」、北信越地域などの「地域ブロック大会」、都道府県などの「県内大会」、「校内大会」などの区分を記入してください。
- 6. 「成績」には、当該大会における成績と志願者の果たしたポジションや役割、入賞・受賞記録等をできるだけ具体的に記入してください。団体競技の場合は、本人が出場したかどうかについても記入してください。
- 7. 「出場者数」には、当該大会における出場チーム数（個人の場合には出場者数）を記入してください。
- 8. 「出場に至る選抜方法等」には、当該大会へ出場するにあたって、どのような選抜方法（予選等）があったかを記入してください。予選なしの場合には「予選なし」と記入してください。

その他

- 1. 記入された3つの成績を証明する資料（大会記録、報道記事等）の写し及び出場していたことを証明する資料（エントリー表、スコアブック等）の写しを必ず添付してください。
 - ・志願者が記載されている箇所が分かるように、付箋を付ける又はマーカー等で識別してください。
 - ・3つの活動実績のうちどれに該当するかわかるように、成績を証明する資料に1から3の番号又は大会名を記入してください。（資料に大会名が記載されている場合、記入不要）
- 2. 「記入責任者」は志願者の所属する高等学校教員に限りします。
- 3. 「志願者との関係」には、「〇〇部顧問教員」「クラス担任」等を記入してください。